

鳥屋野潟シンポジウム

鳥屋野潟の“あるべき姿”を一緒に考えてみませんか！

報 告 書

日 時
平成 24 年 10 月 28 日（日）
13：30～16：40

会 場
新潟市民プラザ

主 催
新潟市中央区自治協議会

鳥屋野潟シンポジウム

鳥屋野潟の“あるべき姿”を一緒に考えてみませんか!

報告書

目次

1 . シンポジウムのプログラムと出演者プロフィール	1
2 . 開会あいさつ 中央区自治協議会 会長 平川 毅彦 氏	3
3 . 調査報告 鳥屋野潟調査(平成23年度)結果報告 中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」 香田 和夫 氏	4
4 . 基調報告「鳥屋野潟の現況と整備計画について」 新潟県土木部河川整備課 課長 美寺 寿人 氏	7
5 . パネルディスカッション (1)桜 (2)湖周道路 (3)水辺の空間の活用について コーディネーター 皆川 袈裟雄 氏 パネリスト 紙谷 智彦 氏 佐藤 雅之 氏 藤井 大三郎 氏 篠田 昭 氏	13
6 . 参加者とパネリストとの意見交換 6-1 . 新潟工科専門学校による「Swan Lagoon ~TOYANO~」 新潟工科専門学校 建築デザイン科 6-2 . 参加者とパネリストとの意見交換	21
7 . 閉会あいさつ 中央区長 仁多見 浩 氏	30
8 . アンケート集計結果	31

資料編

1. シンポジウムのプログラムと出演者プロフィール



シンポジウムプログラム

総合司会 部会座長 水野 透

13:00 会場

13:30 開会あいさつ

中央区自治協議会 会長 平川 毅彦

13:35 鳥屋野潟調査(平成23年度)結果報告

中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」委員 香田 和夫

14:00 基調報告「鳥屋野潟の現況と整備計画について」

新潟県土木部河川整備課 課長 美寺 寿人

- 休憩 -

14:40 パネルディスカッション

(1) 桜 (2) 湖周道路 (3) 水辺の空間の活用について

コーディネーター 皆川 袈裟雄 【KMM(カ・ミ・マ)研究所所長】

パネリスト 紙谷 智彦 【新潟大学 教授】

佐藤 雅之 【とやの話と輪の会 副代表】

藤井 大三郎 【亀田郷土地改良区 事務局長】

篠田 昭 【新潟市長】

参加者とパネリストとの意見交換

16:40 閉会

あいさつ

中央区長 仁多見 浩

プロフィール コーディネーターとパネリスト



【コーディネーター：皆川 袈裟雄 氏】

中央区自治協議会の前委員であり、「水辺とみなとのまち部会」の座長を務め、鳥屋野潟については3年間にわたり検討している。



【パネリスト：紙谷 智彦 氏】

森林・河川・水田などを生態学的な観点から適切に管理するために必要な基礎的・応用的な調査、研究をしている。7年前に鳥屋野潟と水路でつながる丸潟新田地区の休耕田に魚道を設置し、湿地に戻したところ魚類や鳥類が繁殖し、絶滅危惧種が出現した。4年前から学生、地域の人々、亀田郷土地改良区、新潟市とともに、野生動植物と共存できる米作りの実践的な取組を試行中。



【パネリスト：佐藤 雅之 氏】

鳥屋野地区で生まれ育った。子供の頃、ボートに乗ったりイトヨを釣ったりした鳥屋野潟も、現在ではゴミが散らかり近づくことすら出来ない。そんな鳥屋野潟を再び市民が楽しめ、安らぎを感じ、さらには学習や体験の場にしようと、現在、鳥屋野地区のまちづくりの会「とやの話・和・輪の会」で鳥屋野潟について学習している。



【パネリスト：藤井 大三郎 氏】

鳥屋野潟は、米・野菜・果樹・花卉など新潟の銘産品を支える農業用水源であるとともに、農業・雨水排水を受け入れる遊水池であり、豊かな生物多様性に恵まれた田園都市のオアシスでもある。亀田郷では、この鳥屋野潟を核とした農業農村の振興を通じて、都市と農村の調和する地域づくりに取組んでいる。



【パネリスト：篠田 昭 氏】

鳥屋野潟は、本市の都市に隣接し、貴重な自然環境を活かした市民の憩いの場として、また、市民の生活を守る遊水池として、治水上も大きな役割を果たしている。

また、懸案であった公図の確定についても、目途が立ったとお聞きしており、今後市民の皆さんのご意見をお聞きしながら、県と共によりよい整備に向けて努力していく。

2 . 開会あいさつ

中央区自治協議会 会長 平川 毅彦 氏



皆さま、本日はお忙しいところ、鳥屋野潟シンポジウムにご参加いただきありがとうございます。私は中央区自治協議会の会長を務めさせていただいております平川と申します。

中央区自治協議会は、地域の多様な意見を調整し、その取りまとめを行い、協働の要となることを目的に設置されました新潟市の附属機関です。平成19年度に新潟市内各区に設置され、それぞれの地域問題解決のためにさまざまな活動を行っています。平成23年度には区自治協議会が主体的に取り組む自治協議会提案事業が創設され、中央区においては現在4つの課題について取り組んでおります。本日のシンポジウムはその一つとして実施するものです。

鳥屋野潟は、中央区の南部に位置し福島潟、佐潟と並ぶ市内有数の湖沼です。そしてこの鳥屋野潟は、市の中心部に近接する貴重な水辺空間です。中央区自治協議会は、平成20年度より、この鳥屋野潟の保全や活用について、さまざまな機会を通じて検討を重ねてまいりました。

本日のシンポジウムでは、鳥屋野潟のあるべき姿について、広く市民の皆さんから考えていただくために開催するものです。シンポジウムの後には皆さまからの意見を頂戴する時間を用意しております。鳥屋野潟の将来像についてご意見をいただければ幸いです。長時間になりますが、お時間の許す限り参加いただきますよう、お願いいたします。

以上簡単ですが挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

3 . 調査報告

鳥屋野潟調査（平成23年度）結果報告

中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」 香田 和夫 氏



調査の目的

鳥屋野潟北部の弁天橋から上沼までの間の桜の活性調査を行った。

湖周道路の状況そして、分析評価を行った。

鳥屋野潟南部については、鳥屋野潟南部開発計画に基づいて、開発が進んでいる。鳥屋野潟の北部も早くに開発が進んだが、市の計画をきちんとふまえた上での開発ではなかった。よって問題も課題も非常に多くある。鳥屋野潟北部を調査することによって、「鳥屋野潟全体に対する課題を浮き彫りにさせたい」、「今後の鳥屋野潟をどうしていくか」ということで調査に入った。

調査1 - 桜

調査の範囲は、弁天橋から上沼までの間の道路。

道路沿いの桜の木167本、一本一本を調査した。

調査方法： 木の高さ、幹周り(直径)、枝張、樹齡、木の勢い、樹勢、樹形。

、 、 は4段階に区分して調査した。

病虫害、「天狗巣病」、「キノコ」を調査した。木がどれくらい腐っているか、外傷はあるか、根元が傷んでいるかを調査し、総合評価を行った。

調査1の結果 - 桜

寿命	77.2% (167本のうちの129本)のソメイヨシノが高齡期 ソメイヨシノはおおよそ60年から70年の寿命と言われている。
幹の損傷	70%以上の幹に相当な傷みが見られる
総合評価	82% (137本)が著しく傷んでいる、または相当傷んでいる
病気	・キノコが生える 31本 キノコは腐っているところに生えてくる ・天狗巣病 さるのこしかけのようなコブが枝に出来ると花がもう咲かない。
外傷	・自動車の駐車による - 根元の踏み固め - 約30% ・除雪車による傷口 - 根の裂け、損傷

調査1詳細状況 - 一部

- ・道路から見た桜は、非常に健全に見えるが裏側は空洞化してきている。
- ・風か雪により、枝が折れたあとがある。折れた場所から空洞化し、腐れが進行している。立ち枯れに似た内部の腐れが非常に多い。
- ・腐れた木の上から、生きようと根が出始めている(発根と呼ばれる)。下に向かって生き延びようとしているが、風が吹けばいつ倒れるか分からない状態になっている。

- ・ 健全に見える桜でも、ソメイヨシノの場合は、中が腐って、皮一枚という状態のものもある。そのような状態でもきれいな花を咲かせる。
- ・ 除雪車によって出来た傷。このような木が相当数ある。
- ・ 駐車によって出来た踏み固め。既に根がやられ、大変劣化している。
- ・ キノコが生えてくるということは中が相当腐っている。そこに菌が入り、キノコとなって外に出てくる。非常に危ない状態である。
- ・ 木が枯れ、その後に植えられた桜が、日陰によって、大きくなれない。

調査 1 からの課題（桜） - 検討

- ・ ソメイヨシノは、エドヒガンとオオシマザクラの交配種で、寿命は一般的に60年から70年と言われている。幹の中心部が枯死しても外周が生きていれば花は咲くが、倒れやすい。
- ・ 「いや地」という現象 - 同じ場所に次の苗木を植えると育成が不良になる。
- ・ 今後の桜について「放置したまま」か、「観察する」か、「伐採する」か、「新しく植栽する」か、「踏み固めの防止」か、「駐車禁止にする」か、「樹種の転換」か、寿命の長いエドヒガンなどと植え替えをしたらどうか。

調査 2 - 道（道路、遊歩道）

調査範囲：現在ある道路と道路のないところを含める

図書館の裏から、それから野球場の裏

調査方法：桜の周りが歩けるような状態になっているかどうか。

道路のない部分の土地の利用状況、景観について調査。

現在の状況 - 道（道路、遊歩道）

- ・ 桜の木に近づこうとすると危険な状態ほど、交通量が激しい。しかし、歩道はない。
- ・ 図書館から出て、右側が湖面であり、左側が住宅、道路が非常に狭く、すれ違いがほとんどできない。
- ・ 桜木インターから突きあたりの湖面に向かったところ、T字路になっている。非常に危険な場所である。
- ・ 2メートルのポールを2本置いてある(4メートル)が、道が非常に狭い。おそらくこの桜は踏み固めで枯れたのだらうと思われる。もうすでに枯れ上がっている状態である。
- ・ 鳥屋野体育館の前辺りの平らな部分の中を掘ってみると、幅2m、長さ400mのコンクリート道路がある。何のために何をした道路なのか。
- ・ 民家がある小張木地区の裏側の景観が素晴らしい。最高の景観であり、ランドマークもよく見える。周りにはヨシもない。非常にいい場所である。
- ・ 民家がすぐ裏にあり、田んぼがまだある。しかし、ヨシが非常に茂っており、景観上はどうかと思われるところである。

調査 2 の結果 - 道（道路、遊歩道）

- ・ 道路の状況が非常に危険である。特に弁天橋から来た、湖畔さんがある場所の道路が危険で横切ることができない。
- ・ 桜の木が垂れ下がりすでに水面に達している。堤防は崖になっている状況である。

調査1.2の結果より

- ・ 第一に危険を除去する。
- ・ 土手、桜、歩道、車道、民家と一体になっている地区であるということから、別々に計画するのではなく、一体化した計画が必要と思われる。
- ・ 参考までに
この桜は、昭和23年、栗ノ木排水機場竣工を記念し、亀田郷水郷予防組合が新潟市に要請し、鳥屋野潟観光計画の一環として植栽されたものである。当時、鳥屋野潟を観光地にしようと船やボート、あるいはヨット、スワンを浮かべたりし、レジャーの場所にしようという計画があった。提唱者は、元石山村の村長小沢栄一氏。鳥屋野潟観光開発、ウナギ養殖を始めた人物である。弁天橋の架設工事等にも尽力し、この方によって桜が植えられた。
- ・ 桜の調査は平成6年、「鳥屋野潟21世紀の会」が、中学生と高校生と一緒に生育の調査を行った。鳥屋野潟全域618本(当時)、幹周り、高さ、枝ぶりを調査した。また、平成19年、鳥屋野潟南部、ビッグスワンを中心とし78本調査した。本格的な技術屋さんにより、土壌調査まで行った。鳥屋野潟公園を管理している新潟県都市緑化センター「NPO法人わかば」が調査し、その結果を新潟市、新潟県に提出している。しかしながらその結果が活かされていないという実態がある。

4 . 基調報告

鳥屋野潟の現況と整備計画について

新潟県土木部河川整備課 課長 美寺 寿人 氏



鳥屋野潟の整備計画について

新潟県、新潟市、亀田郷土地改良区、北陸整備局、この四者からなる鳥屋野潟の整備推進促進部会において、現在、鳥屋野潟の整備実施、基本計画、実施計画の策定を進めている。

鳥屋野潟の環境

- ・ 市街地の中に広大な水面と多様な環境の鳥屋野潟、この広さは 140ha もあり、昭和 20 年代ぐらいまでは清五郎と女池の間を泳いで往復したら一人前といわれていたとも聞いている。
- ・ (鳥屋野潟の河川環境特性図を示し) 潟の周囲の青い部分はヨシ群落で、ほぼ潟の周囲の全域にわたって水際にある動植物の生育、繁殖などの場所となっている。昭和 58 年からこれまでに実施された植物調査では重要種が 34 種確認されている。ハクチョウやカモなどの渡り鳥の集団越冬地にもなっており、3 年前の調査では最大で 12,216 羽のカモやハクチョウが確認されている。近年の調査結果から鳥屋野潟の潟内のアサザの分布が拡大している。
メダカの生育が復活、スジエビなどの生育密度が増していることが確認されている。
鳥屋野潟の水質環境及び低質環境は改善されており、汚濁対策や浚渫によるヘドロ除去などの効果が表れていると考えられる。
沿線の地域の方々たちの清掃などの熱心な活動も行われている。

鳥屋野潟の治水

- ・ 豊かな自然環境を育む現在の鳥屋野潟の治水能力はまだまだ低い。
- ・ 現在の素晴らしい環境はポンプで維持していると言っても過言ではない。
- ・ 社会活動の基盤である治水能力の向上のためにやむを得ず現況に手を入れなければならない。治水面と環境面において両立した計画を立てたい。

治水能力向上の必要性・鳥屋野潟の現在の治水方式について

- ・ 昭和の初めごろの鳥屋野潟は、栗ノ木川を通じて日本海と直接つながっていた。後、昭和 20 年代栗ノ木排水機場が建設され、更にその後これに変わる親松排水機場が建設され、現在に至る。
- ・ 鳥屋野潟は、標高 5m 以下の低平地で、海面よりも低い場所もある。海よりも高いところでも標高 5m ほどの低平地である。流域面積は約 100km²。
- ・ 鳥屋野潟流域には農地関係と下水道のポンプ場がある。鳥屋野潟の出口である親松地区には親松排水機場、鳥屋野潟排水機場があり、これらは全体で 6 カ所、排水能力は毎秒当たり 171m³。この能力は県庁の建物に相当する水の体積を約 17 分で排水できる規模に匹敵する。
- ・ (断面模式図を示す) 親松排水機場により鳥屋野潟の常時の維持水位であるマイナス 2.5m は信濃川の平水位と比べて約 3.6m 低く維持されている。
日本海の海面と比べても約 3m 低く維持されている。これにより、ゼロメートル地域でも人々の営みができている。

- ・洪水時は流域から鳥屋野潟に流れ込む水のうち、この排水機場と鳥屋野潟排水機場のポンプで信濃川に排水できない量が鳥屋野潟に貯留される。

常時維持水位である - 2.5mから 2m高い水位(- 0.5m)の間を貯留する部分としている。この水位を計画高水位というが、その計画貯留能力は 350 万m³としている。(ビッグスワンの、約 2 杯分弱という容量に相当する)この 2mをもっと拡大できれば、理論上貯留能力がアップする。

- ・貯留能力をアップするには 2 つの方法が考えられる。

計画高水位をもっと上げる - しかしこれ以上高く設定すると、背後からの排水に不具合が生じるところが増えるので難しい。

常時の維持水位を下げる - これ以上低くすると地盤沈下のおそれがある。揚水機場に悪影響が生じる可能性があるので難しい。

現時点においては、この 2mの高さがベストな計画と言える。

鳥屋野潟の貯留容量

- ・鳥屋野潟に 1 時間 100mm の雨が降ったとする。

鳥屋野潟の流域は 100km² の大きさなので、流域全体で 1,000 万m³ の雨が降るようになる。雨の量の 4 割が河川に入ってくる水の量だと考えると、1 時間 100mm の雨によって鳥屋野潟に入ってくる水の量は 1,000 万m³ の 4 割、400 万m³ である。

現在鳥屋野潟には毎秒 100m³ の量を排水できるポンプ場があり、さらに流域内のポンプがすべてここにあると仮定し、このポンプがすべて稼働する量として、合計で毎秒 171m³ の排水能力を持っている。この全体のポンプで 1 時間で排水できる総量 62 万m³(=171m³/s × 60 秒 × 60 分)を引くと、約 338 万m³ が残る。つまり 1 時間 100mm の雨が降ってもちょうど鳥屋野潟にためておけるぐらいの分量ということである。

堤防の構造と機能について 余裕高

- ・堤防の高さは計画高水流量に応じ、計画高水位に余裕高を加えた値以上としている。余裕高は全国一律の構造令(河川管理施設等構造令)という基準によって定められている。

余裕高があることで、安全かつ確実に計画貯留量を貯留することを担保できる。鳥屋野潟は堤防の低いところのほかに、余裕高に相当する高さが無い。河川整備計画における鳥屋野潟の余裕高は潟面積は 180ha、広大な面積を持つことから堤防天端高、いわゆる余裕高を風浪波のうち上げ方を考慮し、現在 1mとしている。しかし現在堤防の余裕高については、諸条件の見直しを行い、現在 20cmほど低くし、80cm とすることを検討している。余裕高の機能は洪水時の風浪などによる跳水や溢水被害の防止である。また溢水部分を特定させるのを防ぐためや、河川区域の明確化のための機能や、洪水時の巡視や水防活動の安全確保の機能もある。

鳥屋野潟の貯留能力の評価

- ・平成 10 年 8 月豪雨では、市内ほぼ全域で大規模な浸水被害が生じた。この時は日雨量 265mm、60 分間で最大 97mm、約 100mm の降雨を観測した、記録的な大雨だった。

鳥屋野潟周辺では潟水位上昇による内水の排水不良や鳥屋野潟からの溢水により浸水被害が発生した。住宅や事業所などの家屋が、床上、床下併せて計 5,132 戸、一般被害額が約 457 億円にも及ぶ甚大な被害だった。このときに潟からあふれた主な場所は、鳥屋野潟の北側、鳥屋野体育館の付近や長潟地区であった。

- ・親松地内の二つの排水機場により、信濃川へ排出する 100m³/s のポンプが現在完成しており、平成 10

年度から見れば治水安全度も向上している。しかし計画高水位より低い区間や構造上の余裕高が不足している区間があるため、安全かつ確実に貯留できる量として 130 万 m^3 が不足している。このために湖岸堤の整備が必要である。そうは言っても昨年の豪雨でも、「これらのポンプの整備によって対応できたのに、治水安全度が上がったように思うけど、なぜさらに湖岸堤の整備が必要なのか」、その疑問について考えてみる。

湖岸堤整備の必要性 平成 10 年 8 月の豪雨と平成 23 年 7 月の豪雨の違い

- ・ 平成 10 年、8 月のときの豪雨では、時間最大雨量が 64mm、60 分最大降雨が 97mm の猛烈な雨となった。累加雨量として 267mm の短時間集中豪雨であった。この時の豪雨の計画規模は、今の計画をはるかに上回る確率 100 分の 1 以上、400 分の 1 規模にあたる大きな降雨であった。それによりこのような水害が起こった。この水害を契機に放水路が拡幅され、新たに鳥屋野潟排水機場(40 m^3/s の排水能力)の整備が行われ、100 m^3/s の能力のポンプ場が完成している。
- ・ 一方昨年の 23 年の 7 月 27 日から 4 日間の豪雨では 278.5mm の総雨量であった。総雨量では、平成 10 年の豪雨を上回っている。しかし、降り方を見ると比較的規模の小さい豪雨が数時間間隔を開けて降った雨であった。降雨もピークとピークの間に 11 時間程度の小康状態が続いたので、その間に一番目のピークの降雨が鳥屋野潟に流れ込み、それを 11 時間の間で親松、鳥屋野潟の排水機場のポンプによって信濃川に排水され、大事には至らなかったものと考えている。

2 つの豪雨を対比すると、平成 10 年のほうが 1 時間当たりの雨の量が大きく、まとまって降っている。このような降り方が洪水の大きさに影響を与えた。

- ・ 排水量で考えてみよう。鳥屋野潟流域に降った雨が地下に浸透する以外はすべてポンプで排出している。平成 10 年 8 月の水害のときは、大きな量の雨がまとまって降ったので、約 12 時間にわたってポンプで対応できない量、いわゆる貯留量が大きかった。一方昨年の豪雨は累加雨量が 278.5mm と大きかったが、時間雨量のピークが比較的少なく、鳥屋野潟への流入量がピーク時でも小さく、ポンプで対応できない量、いわゆる貯留量が少なかった。平成 10 年水害を契機に、新たに 40 m^3/s のポンプが鳥屋野潟排水機場として現在運転している。

ではもし今、平成 10 年水害のときの同じ雨が降った場合どうなるか。ポンプの増設により 1 時間当たりの排水能力が 14.4 万 m^3 増えた。これは鳥屋野潟の貯留量の 4% 程度に過ぎない。依然として、ポンプで対応できない時間があるが、貯留量は少なくなっているため、潟の水位が低下している。水位のピークを計画高水位 - 0.5m 以下にする治水計画となっている。このことから雨の降り方によって潟に貯留される量が異なることから、昨年の豪雨の結果を受けて、鳥屋野潟の治水機能が現状のままで十分であるとはいえない。

築堤・治水計画について

- ・ 築堤すると宅地の水はけが悪くなるのではと心配されている方もいるかと思う。鳥屋野潟に注ぐ排水路は数多くある。潟の水位と排水のメカニズムを表した図で説明する。

築堤と同時に排水路の潟の出口には樋門が設置される。

上段の図は平常時を表す。(平常時は、潟の水位が低いために排水路を通じて、雨水は樋門から排水される。)二番目は、洪水時においても潟の水位が排水路の水位より低い場合で、その場合は雨水は樋門から排水される。三番目は、潟の水位のほうが排水路の水路より高い場合である。このときは逆流するので樋門を閉めて、潟から溢れることを防止する。樋門が閉まっているので排水はしないが、潟から逆流してくるのに比べればたいしたことはない。

一番最下段の4番目は、湖岸堤がない場合である。潟の水位が排水路の水位より高くなれば、潟からの逆流により堤内地が浸水する。このように湖岸堤と併せて樋門を整備することにより、逆流を防ぐ。

- ・ 鳥屋野総合体育館付近に新たに築堤をする区間の築堤の計画高さは最大でも1m未満である。写真で示すとおり、道路の脇に設置してある反射棒と同じくらいの高さである、この丁張りの天端ぐらいが計画堤防の天端高である。
- ・ 近年全国的に短時間で非常に強い豪雨が頻発している。新潟県においてもグラフの通り大雨警報の発令目安である時間最大雨量50mmが、1最大雨量140mm以上の降雨量を観測した回数が近年増加している。(異常気象により想定を超える雨が降ってもおかしくない状況である)
(築堤方式の経済性を説明する)毎秒100m³の排水能力のポンプ場を例として考える。
- ・ ポンプ場の建設費用は、約150～200億円である。1時間で排水できる量は、36万m³、鳥屋野潟の計画貯留量が350万m³であることから約10分の1、有効高で2mのうちの20cmに相当するに過ぎない。したがって、鳥屋野潟流域と鳥屋野潟の地勢的な関係を最大限活かした湖岸堤の築造(貯水容量140万m³アップ 建設費用は約110億円)が効果的である。器を作ることで、超過洪水においても潟からの溢水を余裕高の部分でさらに約120万m³貯めることができる。ポンプは機械なので寿命があり、故障することもある。築堤は土堤なので100年以上もつ。整備の順番として、まず築堤を行い器をつくってから、次のステップとしてポンプの増強などが考えられる。

鳥屋野潟整備計画の素案・整備の効果

- ・ 湖岸堤の計画も公園計画の一部を成すものであることから、湖岸堤計画の策定に当たっては、公園計画のゾーン理念と整合を図る形で計画することとしている。
- ・ 実施方針としては3つ。
 - 一点目：鳥屋野潟はゼロメートル地帯にあり、治水施設は都市機能の根幹、治水容量350万tを確保する。そのためにできるだけ現状を変えないようにしている。
 - 二点目：鳥屋野潟らしい景観である桜並木の保全、渡り鳥などの生物の良好な生育環境となっている鳥屋野潟の湿地の保全に配慮する。
 - 三点目：鳥屋野潟流域住民の生活空間及び公園利用者の憩いの場としても遊歩道などの利便性や快適性を確保する。
- ・ 治水面上における鳥屋野潟の整備を行うことによる効果は、50年に1回程度の雨に対しては無湛水ということを目指している。また、計画を大きく超える平成10年8月の規模の雨に対しても、床上浸水が出ない規模に設定している。湖岸堤の法線形は、公園へのアクセス性や遊歩道の整備を視野に入れ、かつ湿地面積の減少を極力少なくするために、できるかぎり堤内地側に設定している。湖岸堤の整備範囲は現在供用されている鳥屋野潟公園、女池地区、スポーツ公園、鐘木地区は背後地が高いため、その前面を除く範囲としている。(青い線で示した区間が今回築堤を計画している箇所となっている。)北側の鳥屋野潟公園、女池地区や、南側の鐘木地区からスポーツ公園にかけての区画は、公園整備による造成等も含め、背後地が高いことなどから、今回の整備予定から外している。原則として湖岸に隣接している市道の上沼地区の区間のみ道路を拡幅する計画としている。隣接するその他の市道については、歩行者の導線を湖岸堤の遊歩道にしているので、部分的に車道ネック部の拡幅以外は、拡幅は行わないということにしている。

湖岸堤の整備

- ・ 自然環境の保全・活用・体験を念頭に現在湖岸に生育しているヨシ原をはじめとした動植物の育成、生息環境を極力保全するように行う。

堤防の天端幅は 5mを基本とし、管理用通路を整備し、公園内の既存の園路と接続して潟を一周する遊歩道として活用できるようにする。

桜並木の保全や動植物の生育、生息環境への影響を軽減するための側帯を設ける。現況の桜には影響を与えない計画としている。なお、湖岸堤は土堤とする。桜の植え替え時に、位置を湖岸堤側に新たに植える場合は移すということも、可能かどうか検討している。

今回の素案では、現況の環境に対する影響を最小限にするため、堤防の勾配をやや急にしたり、高水敷を取り止めたりして、平成 16 年度策定の河川整備計画の横断計画図を変更している。

遊歩道の整備

- ・ 堤防を築く区間は、堤防の天端を遊歩道として利用できるように、幅員 5mで整備することとしており、現在開園している鳥屋野潟公園の遊歩道、散策路と接続して、鳥屋野潟を 1 周できるような計画としている。一周約 8,600m。自転車道が課題となっており、この叩き台では設けていない。皆さまの意見を聞かせていただきたい。

ふれあいゾーン：上沼地区

ヨシ原が多様な鳥類、昆虫類の生息に寄与していることから、多様な生き物が生息するヨシ群落を極力保全する。鳥屋野潟～女池線の拡幅が計画されている。オオヨシキリの集団生息場となっているヨシ原を極力保全する。そのために潟への法勾配を 2 割とするとともに、道路拡幅による交通量の増加を踏まえ、野鳥等、動物等の緩衝地帯を創出するため、潟側の法面に植樹することも検討している。

小張木地区

周辺と比較して水際が陸化しており、ヨシ原が少なく、湖岸に高木が少なく眺望が良いところとなっている。

方針としては、潟の自然環境や水際とふれあうことができるようにすること。宅地等の緩衝として側帯を設ける。治水容量を確保するために、陸化した土砂部分を掘削し、新たな水際を創出する。

女池地区と小張木地区の公園を連続して結ぶため、眺望や水際の自然とのふれあいのため、法勾配を 5 割と緩やかにしている。5 割としているのはこの区間だけである。

学びのゾーン：桜木地区

県立図書館等へのエントランス、背後地には公園整備が計画されている。

比較的ヨシの分布が薄いため見通しがよく、中ノ島の野鳥を観察するにはとても良いゾーンと考えている。

桜並木の保全、公園と公園を結ぶ緑地の連続性を考慮し、側帯を設ける。治水容量を確保するために、陸化した土砂部分の掘削をし、ヨシ原を移植し、新たな水際を創出することとしている。法勾配もここは 2 割とやや急にしている。

やすらぎゾーン：道寺、長潟

神道寺地区は、背後地に宅地や桜並木がある。桜並木の保全を考えている。

桜並木の保全のため側帯を設ける。法勾配については、ヨシ原への影響を少なくするため急だが 2 割としている。

長潟地区

ヨシ原は多様な鳥類、昆虫類の生育に寄与している。公園計画を考慮し、湖岸堤は現在の河川区域界より潟側の方の草地に設置している。治水容量を確保するために土砂掘削を行う。また新たな水際を創出し、ヨシ原を移植する。法勾配はここでも2割というふうになっている。

栗ノ木川

兩岸に桜並木が植栽されている。

方針としては、桜並木を保全し、潟沿いを散策できる空間とする。堤防背後地に側帯を設ける。桜並木を保全するためである。また河道拡幅に伴い既設の桜並木が支障となる区間においては、側帯を設け、桜等を移植する。上流からの洪水流入のため河道断面が不足しているため、掘削も行う。護岸の堤防の勾配は2割とやや急である。

以上が叩き台の概要である。

計画案への取り組み

- ・ 今回の計画素案について、今回のようなシンポジウムを含むイベントに参加することやアンケート、またパブリックコメントや電子会議、市民団体、中央区自治協議会、潟周辺地区と意見交換会などのご意見を参考にして計画案を検討していきたいと考えている。

計画案では新たに次の内容についても盛り込みたいと考えている。

一点目：工事にあたっての配慮事項。工法や施工時期など。

二点目：環境モニタリングの調査の方法など。

最終的には、第4回の委員会後に鳥屋野潟整備推進部会において実施計画を決定していきたいと考えている。いずれにしても、いろいろな意見交換会などで丁寧に説明をしながら、計画していきたいと考えている。

実施計画ができあがったら、その後は詳細設計、また用地買収のための測量を来年度以降進めていくこととなる。

良い河川環境とは

- ・ 河川環境とは、人間の営みと密接な関係を持ったところに形成されている。

市民と潟とのより良い関わりを期待している。

私たちはそのために鳥屋野潟という治水と環境が両立した器をつくっていきたい。

皆さま方から寄せられるさまざまな意見を踏まえ、より良い計画としたいと考えている。

ご清聴ありがとうございました。

5 . パネルディスカッション

(1) 桜 (2) 湖周道路 (3) 水辺の空間の活用について

コーディネーター

皆川 袈裟雄 氏

[K M M (加・ミ・マ) 研究所 所長]

パネリスト

紙谷 智彦 氏

[新潟大学 教授]

佐藤 雅之 氏

[とやの話と輪の会 副代表]

藤井 大三郎 氏

[亀田郷土地改良区 事務局長]

篠田 昭 氏

[新潟市長]

【皆 川】 前半のパネルディスカッションと後半のフロアとの意見交換をコーディネートさせていただきます。

今日のシンポジウムは、中央区自治協議会が主催しており、テーマは「鳥屋野潟の“あるべき姿”を一緒に考えてみませんか！」です。

鳥屋野潟シンポジウムを開催するにあたり、市民の皆さんへポスター、チラシ等でご案内をいたしました。そのチラシの中で、市民の皆さんから意見を募集しました。

女池にお住まいの87歳の男性からご意見を寄せていただきました。読み上げてご紹介します。「鳥屋野潟を昔の姿に戻したいものです。環境は大きく変化していますが、方法はあるように考えます。人間は月や火星などを訪ねようとしています、それは昔を訪ねることもあるような気がします。昔を知ることは今を知ることに思えます。蛍が飛び交っていた鳥屋野潟の水辺が思い出されます」。おはがきの1通でしたけれども、ありがたいことです。

今日のシンポジウムは、中央区自治協議会主催で、あるべき姿をみんなで考えましょうということですので、この2つの意味は非常に大きいと感じています。参加して下さった皆さんと、会場の皆さん、パネリストの皆さんと一緒に考えていくことで共通の認識をと思っております。

先ほど香田さんと県的美寺課長さんから報告がありました。2つの報告についての感想と若干のご意見があれば、それぞれ述べていただきたいと思えます。亀田郷土地改良区の藤井さんから、鳥屋野潟が今の姿になるにはそれなりの歴史と背景もあると思えます。その辺に触れながらお話をいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

調査報告と基調報告を聞いての感想と意見

【藤 井】 米や野菜、花を生産する農地の整備と用排水路の維持管理を行う土地改良区に勤めております。農業水利施設本来の役割とさまざまな多面的機能を発揮させる取り組みを進めています。

鳥屋野潟に関しては、鳥屋野潟に流れ込む用排水路の維持管理、それと地域排水の要である親松排水機場の運転操作を行っています。今ほど皆川さんからお話がありました地域

の歴史的なことに、一つお話しさせていただきます。

江南区文化会館のこけら落としで「亀田郷龍神伝」

先週の日曜日、新しくオープンしました江南区文化会館のこけら落としで「亀田郷龍神伝」という歌舞劇が上演されました。信濃川と阿賀野川を2つの龍になぞらえて、先人の闘いと開拓を描いた素晴らしい舞台でありました。鳥屋野潟を囲む鳥屋野姫というのも登場します。その時のフィナーレの台詞は、「この美しき湖、亀田郷を水害から守り続けてきた湖、鳥屋野潟の浄化と再生を願い、かつ過ぎ去りし清浄を取戻す努力を忘れてはいけません」というものでありました。その龍を退治するのではなくて、鳥屋野姫がてなづけつつ、みんなで生きていくために人々が奮闘する物語でありました。鳥屋野潟は亀田郷同様、排水の要であり、かつては貴重な土取り場であったり、さまざまな恵みを受けてきました。これからも大事に守り育てていく財産であると思います。私たちも大河川や鳥屋野潟が暴れるのをなだめつつ、共生する知恵を、今日みなさんと話し合いたいと思います。

鳥屋野潟調査報告と基調報告への感想と意見

桜並木についての調査分析について

今後将来整備する上で大変貴重な基礎的データになるのではないかと、また潟の景観は原風景と調和するランドマークというとらえ方もよかったのではないかと思います。

鳥屋野潟の現況と整備計画について

これまでの様々な歴史的経緯を考えますと、大変感慨深く拝聴しました。治水の整備方式の3つのくくりは誠に結構ではないかと思います。鳥屋野潟の整備方針の中で、治水、利水、環境、これらの調和が取れたものであるべきと思います。

治水安全度の向上についていろいろなデータがありましたが、それぞれの分野でメリット、デメリットを比較していただくと、より丁寧で分かりやすかったのではと感じました。

最近の局地的な集中豪雨を見ますと、新潟市で時間当たり20mm以上の集中豪雨を記録したのは、昭和63年から平成9年までに23回ございます。平成10年から10年間では38回。さらに鳥屋野潟流域の急速な都市化、土地利用の変化を考慮すると、やはり治水安全度の向上は緊急かつ重要な課題であると思います。

利水面から鳥屋野潟は大事な農業用水源であります。紫竹山ICのそばに竹尾揚水機場というポンプ場があり、そこから毎秒2.2tの水を、紫竹山・石山・大形・海老ヶ瀬方面にある約200haの水田を灌漑しています。さらに上沼や小張木にも用水を供給。大きいポンプがあります。鳥屋野潟の治水、水質を考える上で留意すべき点ではないかと思います。

最後に強調したいのは、鳥屋野潟の治水を考える上で、亀田郷全体の排水対策と合わせ、流域全体を総合的に検討することが大事だと思います。

【佐藤】 私は女池に住んでおります。鳥屋野潟は近いです。私はまだ若いので、鳥屋野潟の、自分の親たちから聞かされている古い姿は体験したことはないのですが、それでも子どもの時は鳥屋野潟でイトヨ釣りなんかをしました。そのころはまだメダカ、イトヨがいくらでもいたように思います。しかしながら、最近鳥屋野潟に行ってみますと、外国のアカミミガメがいたり、釣りをしている人の横で見ていると、ブラックバスが釣れたり、環境は変化してきていると思います。

新潟県から堤防をつくって防災、そして水害から守るようにしようという計画が出ました。今日説明していただいたのを見ますと、だいぶ自然環境を考慮した計画になっております。発表された当時は現在のやすらぎ堤のようなもので、堤防だけつくれば良いという発表でした。しかし、それでは地域に住む住民としてはよくないのではないかと思い、「とやの話・和・輪の会」という会に入会し、鳥屋野潟をよくしようと研究してきたところです。

「とやの話・和・輪の会」の活動

「とやの話・和・輪の会」で、一昨年、新潟県立図書館で鳥屋野潟フォーラムを開催しました。鳥屋野潟を、ほかに研究するグループ「自然ゆたかな会（自然ゆたかな鳥屋野潟とまちづくりをすすめる会）」と、「鳥屋野潟21世紀の会」、さらには地域のコミ協、女池コミ協、山潟コミ協が一緒になり開催しました。現在われわれは「鳥屋野潟を育む市民の連絡協議会」というものを結成、組織し、「いろいろ鳥屋野潟を知っていかなければいけない」と話し合っています。

浮かびあがってきた問題、「防災」ともう一つが「われわれ市民として鳥屋野潟をどう利用するか」、そしてもう一つが「自然を守らなければいけない」、この3点から鳥屋野潟をどのようにしていった方がいいのかを話し合っています。一つ目の防災としての堤防、築堤についてが、本日の説明でだいぶ疑問が解消されましたが、まだ疑問点が残ります。

鳥屋野潟調査報告と基調報告への感想と意見

いろいろなイベントなどを開催し、一周遊歩道をつくってほしいと思いました。鳥屋野潟一斉清掃に参加し、鳥屋野潟の周りを歩いてみました。藪がすごく、ゴミがすごいです。交通量が多く、歩きづらく、とても危険です。市民は一周遊歩道を求めています。われわれ市民団体としても、いい遊歩道なりをつくってほしいと思っています。

今頃の時期、どこへ行ってもセイタカアワダチソウで、みんな田んぼの周りや河川の周りが黄色くなっています。そうならないように自然環境を考慮し、遊歩道や築堤をつくる時、工事を進める時、そして完成してからも、維持管理をしてほしいと思います。

【紙 谷】 鳥屋野潟調査報告と基調報告への感想と意見

・ 調査報告について

市民活動としてあそこまで丁寧に調べられたことに敬意を表したいと思います。具体的な桜の状況とか、キノコが2割の木に出ていることで、かなり衰退している状況だということが分かりました。

道路側ではなく湖岸側の根元に腐れが入っていることの特徴を説明されてました。もしかすると根っこがどんどん成長していきますと、湖岸に届くので、湖岸側の根っこのほうに腐れが入って、裏側が腐っていったのかなと、いう気もします。もしそうだとすると、将来的に桜を植え替える話になった場合、その辺りも考慮する必要があると思いました。今後のことを考えると樹木医の方に丁寧に見ていただく必要があるのではと感じました。

・ 基調報告について

私は河川の専門家ではありませんので、築堤がどれくらい出水に効果をもたらすかの評価はできませんが、計画の中で、今後議論になるだろうと考えられたのが、掘削とヨシ原の移植です。仮に工事が行われるとした場合、注意深く、例えば最初どこかで試験的にやってみ

るということも必要だと思えます。何よりも、その場所の植物がどういう状況になっているのかをきちんと、本来ならばアセスメントに準じるようなことをされるのがいいと考えました。特に植物に対して、潟の湖岸の、ちょうど水がひたひたになっている場所のヨシ原が、ちょっと水位が上がると水に浸る、また水位が下がったら少し乾くような状況になってくるのですが、そういうところはいろいろな植物が生育しています。その中には絶滅危惧、県内のレッドリストに載っている植物がそういうところに本来生息、生育していることも分かっております。手を付ける際に、十分な注意と事前の調査が必要と感じました。

【篠 田】首長の立場でいえば、こういう鳥屋野潟という大切なテーマを中央区自治協議会の主催という形でシンポジウムをやっていたに付いて、本当にありがたいことだと思っております。

鳥屋野潟調査報告と基調報告への感想と意見

・ 大切なのは治水

私は首長の立場の前は、新聞記者をやっておりました。私は結構鳥屋野潟のシリーズを担当いたしまして、5～6回シリーズを書き、合計30本ぐらいは鳥屋野潟の記事を書いたと思います。そのとき鳥屋野潟は、田中金脈でした。湖底に私有地権があることが、不思議な話だねと。田中金脈に鳥屋野潟がなくなってしまったのかというところから取材させていただき、歴史を知る面で大変勉強になりました。勉強をしているうちに、やっぱり一番大事なものは治水なんだということを気付かされました。当時亀田郷の理事長をやられていた佐野藤三郎さんらが、治水こそ一番重要だと言い、田中陣営は埋めると金になるということがあり、佐野さんは安易に埋めさせないという取り組みを行っていました。潟を見れば埋めるといふ、そういう風潮を亀田郷さんが治水をキーワードにして跳ね返してくれたおかげで広大な湖面の鳥屋野潟は今残ったということです。

・ 新潟の宝物

本当に新潟の宝物にしていくにはどうすればいいか。

このことを新潟県さんが湖底地権、これを公図確定し、整備していこうという大きな土台ができあがった。治水の機能を十分に活かしながら、利用と自然というお話がございました。宝の持ち腐れにはしたくないと、市民が憩えるそういう場にしていきたいと思えます。

自然環境、鳥屋野潟は一時全国の水質ワースト3でいろいろなところに名前が出てきたが、今だいぶ下水道の整備も進んで改善はされております。さらに水をきれいにし、自然環境を残すものは残し、活かすものはさらに伸ばしていくということでこのシンポジウムから鳥屋野潟の本当にあるべき姿、これを皆さまとともに考え、そして新潟県、新潟市と一緒に整備を頑張っていくように努めたいと思っております。

鳥屋野潟の「桜」、「湖周道路」、「桜並木」について

【佐 藤】一周遊歩道

絶対に必要であると思えます。いろいろなイベント等でアンケート等を取りますと、一番要望が多いのが一周遊歩道です。

どんなものがあるのか、一番に「安全、安心」、そして「快適に利用できる遊歩道」、もう一つが「親水性」です。遊歩道を歩いただけでは、水と親しむことはなかなかできません。ところどころ木道等をつくり、水に親しめるような遊歩道をつくってほしいです。

ヨシ

県の説明では、ヨシを非常に重要としています。

昔の写真を見ると、昔は意外とヨシが少なかったのです。

新潟市が鳥屋野潟の生物等の調査をしています。調査のためにヨシをちょっと刈るそうです。するとそこから今まであまりなかった植物や花が出てくるということです。鳥屋野潟の歴史を考え、鳥屋野潟の本来あるべき自然を研究して整備していただきたい。

桜並木

地元なのでよくあの辺は車で通ったりするのですが、道路が狭いです。道路にへばりつくように桜が植えてあります。4月になり、桜が咲きますが、近くまで行って桜を見ることはなかなかできません。せいぜい車に乗って、車の窓から見る程度です。歩道もないし、非常に危険です。現存する桜をどのようにするのか、寿命なので更新するのか、あそこまで大きくなったので、きちんと保存するのか、と考える余地があると思います。

工事

工事ですが、河川敷を見ていると、どこでも外来種が入り込んでいます。特に河川敷の工事、阿賀野川とか見ると、セイタカアワダチソウがはびこって、今ごろだと本当に真っ黄色になっています。鳥屋野潟が秋になると真っ黄色になることは避けていただきたい。完成してからの維持管理をきちんとしていただきたい。

遊歩道 イベントが出来る場、体験の場

遊歩道をつくっていただきたい。福島潟とか佐潟に行きますと、潟の周りに広い空間があり、そこでいろいろなイベントができます。しかしながら鳥屋野潟では、なかなかそういうことができるスペースがありません。われわれとしては学習と体験の場がほしい。どこが空いているか、国際文化教養ゾーンというふうにゾーン割されている場所があります。今の清五郎潟の裏側の辺りに体験と学習の場を整備していただきたい。具体的には昔この辺にありました泥田、よく教科書などに写真とか残っていますが、現実にはどこにもありません。泥田を復活し、子どもたちや市民に体験してもらおう。そして鳥屋野潟、亀田郷の地域が現在のように乾田になった歴史を学ぶとともに、本当に米・田んぼというのが大事なんだということを学んでいただきたい。また、鳥屋野潟の周りに昔あった谷地等を復活させ、自然を濃厚に体験でき、自然観察のための拠点施設などもあればと思っています。

【篠 田】鳥屋野潟を安心して歩ける

市民、県民の多くは鳥屋野潟を安心して歩けるようにする、あるいは人によってはサイクリングぐらいはできるようにしてもらいたいことがおそらく治水の次にくるだろうと。

桜 鑑賞する広場

先人達が苦労して植えてくれた。市民の力を借りながら、桜サイクルを回していく。また新しい桜を植えていく、そしてところどころは桜をゆっくり見られる芝生広場みたいな

のがあるといいのではないかと。

安心して歩けるところ

潟の北側と潟の南側、同じようにする必要はないと思います。

潟の南側はすでに鳥屋野潟公園なども整備され、結構安全に歩けるところが多い。一番問題なのは潟の北側です。北側を早期にどうしていくのかということだと思います。潟の北側と南側が全く同じ景観である必要もないのではという気もしています。

南側はどちらかと言えば原風景、そして北側のほうは多少芝生広場があってもいいのではと。市民の立場で今発言をさせていただきました。

【藤 井】桜並木 事例：亀田郷大江山地区「すごぼり」

市長さんから市民の力を借りて桜並木をというお話がありました。地域の人たちの力で桜並木をつくった一つの事例を紹介し、提案したいと思います。

亀田郷の大江山地区というところで、今中央卸売市場の脇を流れます横越排水路、地元では通称「すごぼり」といっておりますが、その右岸側約4kmと左岸側少しに、平成元年に8m間隔で400本の桜を植えました。これらを植えたのは「大江山の地域づくり協議会」という地元の自治会、学校、JA、土地改良区等が入り、地元のごみ拾い、草刈、地域の文化祭などをする、地域環境を向上するための推進母体です。そこで地域の人たちに当時ごみの不法投棄の場所になっていた水路の溝畔、いわゆる堀の岸辺に桜を植えるための苗木を地域の方に募集したところ、400本あまり集まり、寄贈者の名札を希望によってかけ、維持管理も行い、大事に育ててきました。協議会によって毎年「すごぼり観桜会」を行い、現在は桜の名所になっております。ごみの不法投棄の場所が桜の名所になったという一例です。

湖周道路

完全に一周することが大事と思いますが、現在は途絶えています。特に潟の入り口と出口です。入口は栗ノ木川のところです。ここは遊歩道、橋がかかっておりません。橋をかけることによって鳥屋野潟の両岸から栗ノ木川を周回できます。また亀田郷の乾田化の礎を築いた栗ノ木排水機場の水門と船通しが残っています。跡地を歴史的遺構として公園化し、立体的に整備することで周回できるのではないのでしょうか。

潟の出口、上沼橋、親松側に歩道橋がございますが、鳥屋野潟に歩道がございません。鳥屋野潟にも歩道をつけることによって一周できるのではないかと。そこでマラソン大会を開催してはどうかと思います。非常に良い国際大会ができるのではないかと。国際鳥屋野潟マラソン大会を行えば、新潟市あるいは新潟県の国際拠点性、あるいは水と緑の景観が大変アピールできると思います。一つの夢・将来像としてご検討いただければと思います。

【紙 谷】新潟市が持つ鳥屋野潟、福島潟、佐潟の三つの潟

佐潟は砂丘湖で湧水なのですが、福島潟はたくさんの河川が入ってきていて、湖水の水位変動がかなりあります。

福島潟と佐潟は、非常に植物の多様性が高いのに比べると、鳥屋野潟は絶滅した植物を含めて、危機的な状況にあると考えていいと思います。植物、例えばかつては普通に見られ

たヒルムシロとかクロモは、ほとんど発見されなくなっているそうです。

鳥屋野潟は、人との関わりがかなり強かった潟です。かつて泥田と言われていたころの水田に土がもっと増えるように、農家が鳥屋野潟から掘り上げた土を船に載せて自分の水田に流し込み、なるべく地盤を上げようということをされた時代もありました。

3つの潟の成り立ちや歴史が違うことをまず市民が理解する必要があると思います。

鳥屋野潟の桜 周遊道路

鳥屋野潟にどんなふうに入人がアプローチしてくれるのかということを考えたときに、桜並木は大きな装置であると思います。桜につられてやってきて、潟本来の姿に触れ、ああ、鳥屋野潟ってこんなところだったのか、こういう環境もあったのかということを理解していただけるような、そういうスタイルに持っていかたいのではないかと思います。

これからの鳥屋野潟のあるべき姿の方向性

【皆 川】 市民の立場から鳥屋野潟の自然環境の保全、あるいは利用、活用の方向性、これらを探ること。そのためには国や県や市や土地改良区、それぞれの行政機関の役割があると思うのです。その役割分担をしていただいて、鳥屋野潟の将来をいいものにしていくということになります。同時にそれを支えていく、市民が支えていくという母体も必要のことだろうと感じています。これから鳥屋野潟のあるべき姿の方向性をみんなと共通認識にしていくことが大切だと思います。

【紙 谷】築堤の計画 - 市民と潟を結び付けるもの

築堤の計画が「潟と市民」の間にバリアをつくるようなことになってはいけない、市民と潟を結び付けるようなものでなければいけないというのが原則だと考えますし、1950年代に新潟平野では多くの湿地が失われましたが、かつての氾濫原では、農家を始めとして、市民は大変な苦勞をして生活していたわけです。今は排水もよくなり、乾田化されて、農業も機械化され楽になりました。その反面、多くの絶滅危惧にいたる植物あるいは動物、鳥類が増えてしまったということも一方ではあります。本来の潟の姿を忘れないためにも新潟平野の原風景だったころの潟をきちんと市民が鳥屋野潟に来たときに確認できるようにしていけたらと思います。

潟と人との間がより近くなるような取り組み

多くの市民は植物を含め、生き物に関しては、具体的な名前とか、どういう役割を果たしてくれているのかということに関してはあまりご存じない。市民の潟に対する理解がもっと深まるような取り組みが必要ではないかと思います。より潟を理解するために、潟に生育しているような植物なり、魚なり、動物なりの、名前とか生態を知ることによって、より身近な印象を受けると思います。何も知らないと単なる藪というふうに思ってしまうが、知ることによって親近感を持つと思います。そういう市民の側も含めて、行政も潟と人との間がより近くなるような取り組みが必要かと考えます。

【藤 井】貯水能力、貯水機能を活用した治水安全度の向上と水辺の再生

田んぼの持つ貯水能力、貯水機能を活用した治水安全度の向上と、環境用水の拡充による水辺の再生、この2つが大事だと思います。鳥屋野潟そのものの貯水容量を増やすための浚渫も大事だと思います。

田んぼの持つ貯水能力

例えば田んぼの畦を10cmかさ上げしますと、1haの田んぼで1,000t貯水能力が増えます。鳥屋野潟流域の水田3,600ha、これらの畦を10cmかさ上げすると、360万t貯水量が増えます。これは鳥屋野潟の貯水容量と匹敵する量でございます。そうすることによって雨水が緩やかに遅れて鳥屋野潟に入ってくる。急激な水位上昇を押さえ、排水機場の運転負荷が軽減され、治水安全度の向上につながると思います。今年度、新潟市さんと、亀田郷土地改良区が連携して、新潟市東区で畦のかさ上げの試験施工を行い、どれだけ効果が上がったかを検証する予定になっております。

環境用水の拡充

地域に水が入ってこない、水辺空間が悪化しますので、紙谷先生からも研究していただいて、面的に拡大して、水と緑のネットワークをつくっていきたいと思います。

【佐 藤】市民の拠り所

鳥屋野潟は市民にとって拠り所にならないといけないと思っております。一周遊歩道、藤井さんがマラソンをしたらどうかとおっしゃっていましたが、近隣の小学校の生徒がそこでマラソン大会をするだけでも良い思い出になり、拠り所になると思うのです。さらに共有ゾーンに泥田や体験できるところをつくり、子どもたちが体験すれば、良い思い出になって新潟が好きになるといいます。泥田といえば水と土だと思います。市民が本当に楽しめる、そんな鳥屋野潟にしていきたいと思っております。

【篠 田】田園環境都市のシンボル

田園環境都市のシンボル、これが鳥屋野潟だと思うのです。福島潟も佐潟もみんな田園環境都市のシンボルになり得る素晴らしいものであると思うのです。佐潟はラムサール条約に登録し、福島潟では、今田んぼだったところを、また福島潟に戻しています。福島潟は、新しい時代を先取りしている、そういう動きがある。

この鳥屋野潟、どういうふうにしていくか。今いろいろな知識をお持ちの方もいっぱいいらっしゃいますけれども、われわれ地域学、地元学の中に「潟学」というのがあってもいいのではないかと。潟をど真ん中に据えて、潟というものをいろいろな角度から勉強する必要があるのではないかと。

3つの潟は新潟の財産ですけど、それ以外に新潟って名前があります。新潟県さんのお力を借りずして、潟学をしっかりと新潟市がやって、そして整備のほうは新潟県と新潟市が力を合わせる、これが新潟州という考え方なわけですから、新潟州でやったらすごく鳥屋野潟の整備、いい形で前に進んだなというふうに、10年後ぐらいに言ってもらえるように、そのときはきっと新潟潟研究所とか、そんなものが鳥屋野潟のほりにあるんじゃないかと思っております。

6 . 参加者とパネリストとの意見交換

6-1 .新潟工科専門学校による「Swan Lagoon ~ TOYANO ~ 」

「Swan Lagoon ~ TOYANO ~ 」 イメージモデルの報告

新潟工科専門学校建築デザイン科 3名



【皆 川】新潟工科専門学校の学生さんに作ってもらった、イメージモデルの思いを学生さんたちに語っていただきたいと思います。

【学 生】これから発表する内容は、私たちが製作したイメージモデルです。

生き物と共存しお互いの独自性を守り、暮らしやすい環境をつくる

鳥屋野潟と地域の関わり。鳥や動物と人との関わり。生き物と共存し、空間を共有しつつ、お互いの独自性を守り、暮らしやすい環境をつくるのが今回の目的です。そこから私たちは共存をテーマに掲げました。今現在鳥屋野潟がありながら、触れ合える場もきっかけもない状態です。そこで私たちは客層を絞り込んで、鳥屋野潟に興味関心を持って来ていただけるよう、ファミリー、子ども・地域、カップル、女性の4つのゾーンに分けました。

ファミリーゾーン：ハクチョウをイメージした中核施設

一つ目はファミリーゾーンです。

こちらのゾーンは周辺住民や新潟県民だけではなく、県外からの観光客も呼び込むことを視野に入れました。ビッグスワンからヒントを得て、ハクチョウをイメージした中核施設を考えました。鳥屋野潟は佐潟と福島潟の中心に位置していて、渡り鳥の拠り所になります。そこでハクチョウが2羽寄り添っている形にしました。この中核施設をスワンラグーン鳥屋野と名付けます。ハクチョウの首の部分を上り、顔の部分の展望台から鳥屋野潟が一望できます。体の部分では県内で生産した物産品の販売やレストラン、カフェを考えています。鳥屋野潟の中心に立ち、鳥屋野潟との一体感を味わっていただきたいので、中核施設は浮き島に建てることを考えました。浮き島からは棧橋を渡って鳥屋野潟の中心に立つことができ、そこではまるで鳥屋野潟に浮いているような感覚になることができます。鳥屋野潟の湖畔は県内で有名な桜の名所でありながら、道路が狭く、駐車スペースも少な

く、草木も整備されていません。今の状況ではゆっくりとお花見をすることもできず、鳥屋野潟を臨むこともできないので、レジャーシートを広げたり、車とは離れて安全に歩くことができるデッキがあるといいと思いました。ある程度草木を整備しますが、湿地に暮らす生き物を守るため、草木を残しつつ、その上につくることを考えました。お花見の季節はもちろん、今の時期、紅葉を楽しむのも面白いと思います。

地域ゾーン：秘密基地のようなイメージ

二つ目は、子ども・地域ゾーンです。

こちらのゾーンは周辺にいくつかの公園があり、遊んでいる子どもがたくさん見られます。そこで湿地の草木を整備し、広場をつくろうと考えました。秘密基地のようなイメージです。広場には簡単なアスレチックを設置し、子どもはもちろん、お年寄りの散歩ついででのトレーニングなどにも利用してほしいと考えます。またこの広場はドッグランとしても利用していただきたいです。

カップルゾーン：桜を見ながら歩く遊歩道

三つ目はカップルゾーンです。

こちらのゾーンは鳥屋野潟公園の一角で、この辺りの桜も大変きれいです。桜を見ながら歩ける遊歩道を設け、ところどころにポケットパーク、休憩スペース、ベンチを設置します。また湖畔にファミリーゾーンと同じくデッキを設けようと考えています。

女性ゾーン：切り株をモチーフとした利用施設

四つ目は女性ゾーンです。

このゾーンは私たち女性目線で利用施設を建てようと考えました。鳥屋野潟の自然と同化させかつ渡り鳥が警戒しないような色や、外観がいいと考え、切り株をモチーフとしました。施設の屋上テラスからはきれいな夕日を眺めることができます。利用施設の内容は足湯、銭湯、岩盤浴、足つぼマッサージ、カフェです。足湯と銭湯では鳥屋野潟の水を浄化、消毒して利用します。足つぼマッサージは誰でも無料で利用できます。カフェでは新潟産のお米や野菜を使ったメニューを展開します。さらに施設横の小川のような部分を利用し、水をきれいにして、夏場は蜚が生息し、それを鑑賞できるといいと思います。

南北のアクセスをよくする橋：「わたり橋」

それからこれらの施設を建てたことで起こる渋滞の緩和と、鳥屋野潟の南北のアクセスをよくするため、鳥屋野潟を横断する橋をかけようと考えました。鳥屋野潟は渡り鳥の拠り所となることと、鳥屋野潟を渡ることから、この橋を「わたり橋」と名付けます。この橋も渡り鳥が警戒しないような鳥の巣をイメージとしたデザインとし、冬季間は閉鎖することとします。わたり橋からは左右に鳥屋野潟を臨むことができ、湖畔ではなかなか観察することができない野鳥も、ここでは観察することが可能です。以上の施設等はロビー受付横に模型が展示してありますので、ぜひご覧ください。

鳥屋野潟の湖畔を走る循環バスの導入

さらに活用プランについても考えました。鳥屋野潟周辺に暮らす方々、新潟県民はもちろん、県外からの観光客も集客できたらいいと思います。

そこで周遊プランの提案や、スタンプラリーを兼ねたマップづくり、観光バス、鳥屋野潟の湖畔を走る循環バスの導入を考えています。季節ごとに変化を持たせ、イベントや催し物をする、鳥屋野潟が賑わい、大勢の方々を集客できると思います。

鳥屋野潟と地域の関わり。鳥や動物と人との関わり。生き物と共存し、空間を共有しつつ、お互いの独自性を守り、今より一層暮らしやすい環境を、私たちは鳥屋野潟をその結び役として新しい共存の仕方を提案します。そしてたくさんの方々に鳥屋野潟に興味、関心を持っていただき、新潟市で一番の観光スポットを目指します。それが私たちの理想です。

以上で終わります。

ありがとうございました。



Swan Lagoon ~ TOYANO ~ 模型

6-2 .参加者とパネリストとの意見交換

【皆 川】 フロアの皆さんからのご意見をお伺いしたいと思います。

ご意見を伺った後で、パネリストの皆さんから一言ずつコメントをいただき、意見交換とさせていただきます。

【参加者 A】 鳥屋野潟と清五郎を2つ合わせた遊びながら学ぶ遊学の空間に

鳥屋野潟、清五郎2つを合わせて、遊びながら学ぶという、遊学の空間にしたらどうか。例えば清五郎の天寿園を拡張して、東京にある百花園のような四季折々の花の臨めるように。鳥屋野潟周辺に小石川の養生所、薬草園のようなものを持ってくればどうか。

鳥屋野潟と清五郎の歴史を自由になって浸れる空間づくり

鳥屋野潟は立派な観光資源、新潟の歴史の場である。
清五郎と鳥屋野の歴史に浸れる空間づくり、浸れる空間イコール観光資源の要素は十二分にある。

【参加者 B】 周遊道路でマラソン大会

周遊道路ができれば非常にいいと思う。

自然環境との問題：湖水全体との共存

動植物を守らなければいけない場所、ある程度湖水に影響するような場所、ある程度棲み分けが必要。

自然をうまく取り込んでも、遊興施設というのはなかなかできにくいと思う。

【参加者 C】 記念樹植栽スペース

あるゾーンを、メモリアルツリーという形でもって、記念樹的なものを植えられるようなスペースはできないか。結婚記念の木、還暦の木、いろいろな記念になるようなものを植え、記念日になると、散策に行くきっかけづくりとなり、皆さんが集まる場となる。

【参加者 D】 鳥屋野潟の桜の木の財産はどこでしょうか。

平成の鳥屋野八景

鳥屋野潟の景観は、昔から鳥屋野八景という掛け軸に書れたりしている。平成の鳥屋野八景もあるといい。鳥屋野潟の景観で一番良い場所は、弁天橋からの鳥屋野潟。弥彦、角田山をふところにした鳥屋野潟が最高。

【参加者 E】 子ども達が関心を持つような活動

子どもが関心を持つと、父兄も一緒に関心を持つ。子どもより親の方がかえって熱心になるという現象が出る。子どもに対する教育を前面に出されたほうがいいのではないか。事を進めるには、県、市、亀田郷一緒になって共同でやるべき。

【参加者 F】堤防は本当に必要？

堤防は、基本的に反対。本当にやるべきかどうか。ほかの代替方法、田んぼダムとか、さまざまな代替案の中から検証したものなのか。新潟県の公共事業の優先順位として、これをまずやらなければいけないということかどうか疑問です。

周遊道路：生き物への影響

周遊道路に関しては、反対。鳥への影響を考えるべき。特に鳥屋野潟の場合はコハクチョウがおり、人間への警戒心がある。警戒心があるものに対して構造物をつくるというのが果たしていいのか。

希少な植物を移植するという話もあったが、非常に難しく、うまくいった試しがない。

【参加者 G】遊歩道も必要では。

新潟というのは歴史が新しく、新発田、高田、長岡みたいに、お城もないし、歴史もない。その中で鳥屋野潟というのは本当に新潟市の財産である。もっと市長に力を入れてほしい。遊歩道も必要。

【参加者 H】築堤は本当に必要か？

築堤をやると景観が一変し、自然に重大な打撃を与え、治水上不必要ではないか。鳥屋野潟で、築堤が必要かどうか市民と検討していきたい。専門家を入れて本当に事例の方で詰めた議論をしていただきたい。

【参加者 I】ラムサールと条約の登録

いろいろ環境整備をし、ラムサール条約の登録湿地に立候補していただきたい。

【参加者 J】築堤は本当に必要？

築堤は、非常にまずいと思う。総合的に考えて、メリット、デメリットをちゃんと計算すべき。重要な水辺を無くし、埋め立ては反対ですし、生物多様性にも反していると思う。

道路 - 人中心なのか？車が中心なのか？

今の鳥屋野潟の周りは人中心なのか、車中心なのかをきちんと考えるべき。

道路を、むしろ一周道路にし、新たな道路をつくるビジョン、人中心、周り人中心が鳥屋野潟のあるべき姿ではないかと思う。

【参加者 K】市民が望む鳥屋野潟 - 市民が十分に議論できる時間を

本当に市民が望む潟をどうするかという未来の話ができない。少なくとも 2 ~ 3 年は十分な市民の論議が起こされるような機会をつくっていただきたい。

新潟市の宝に

市長さんは私たちの会との話し合いでも、「鳥屋野潟の問題は市民参加で抜本的に考えることが必要だ」、「潟を大切にしたいのだから、どのようにするか市民と一緒に考えていきたい」、「政令市が主体になって管理した方がよいのではないかと」言っている。佐潟、福島潟、鳥屋野潟と合わせて水田地帯をまとめて、世界の宝、新潟市の宝になるようお願いしたい。

【参加者 L】 自然に負荷がかからない鳥屋野潟の保護、活用を

もっと自然に負荷のかからない方法で鳥屋野潟を保護、活用していただきたい。

遊歩道は一周どうしても必要か？

遊歩道はどうしても一周必要なのか。もう少し人間重視じゃなくて、自然を大切にする施策をやっていただきたい。

【皆 川】 パネリストから、会場からのご意見を含めて、コメントをいただきたいと思います。

【紙 谷】 非常に多様なご意見で、まとめていくためには、きちんと議論を重ねなければいけないと感じました。特に自然を守る必要があると強くおっしゃっている方も、それは私ももちろん生き物を扱っている研究者ですので十分理解できます。一方では植栽という話もありましたし、それから薬草の話もありましたが、こういう自然の生態系の中に、他から生き物あるいは植物を持ち込むというのはちょっと慎重にしなければいけないというところは、ぜひお考えいただきたいと思いました。

周遊道 - 自然に負荷をかけず潟をうまく活かす

それから周遊道に関しましても、本当に必要なのかということを考えると、観察という観点からは一周は必要ないというふうに私も感じました。特に自然に負荷がかからない方法で、潟をうまく活かしていくことが必要だという意見もかなり出ていました。

自然と人とが共生する湿地としての潟

子どもたちへの教育という意見もありました。新潟市が今年の3月につくられた、「生物多様性地域戦略」があります。非常に立派な冊子でして、その中に「里潟」という言葉が出てきます。これはたぶん新潟市がつくられた言葉だと思います。里山と同じです。最近では里海、里山があるのですが、なんと新潟市は里潟をつくりました。多様な動植物の生息、生育する豊かな湿地環境が保たれるとともに、人々の暮らしや文化、景観と深く関わり、自然と人とが共生する湿地としての潟を、このプランでは里山と同じように里潟と称することにしますというふうには書いていらっしやいます。

潟本来の姿をもう一度見直す

もちろんこれは篠田市長がトップですので、本来の潟に対するスタンスだというふうに理解していただいていると思います。しかしこの潟自体、どんなふうにわれわれのものとして考えるのかというのが非常に重要であり、活用したいとか、先ほどの学生さんのいろいろな提案もありますが、潟本来の姿というのを、もう一度見直して、本当に必要な施設だろうか、本当に必要な工事なのかということを、きちんとチェックしていく必要があると感じました。その上でどうしても必要であれば、じゃあ潟の持っている自然をいかに傷めないで、活かしながら、われわれが共生できるのかということを考えていかなければいけないなと感じました。

【藤 井】 治水安全度の向上と水田を守る

自然との関わりで、どういう距離感で接していくかは、これからも皆さんとよく論議し

なくてはいけないと思います。鳥屋野潟そのものが、今人工的に手を加えることによって自然が守られているのも事実ですし、自然というのは本来そういう面が多くあるのではないかというふうに思います。かつての芦沼とか、そういうときですら、ヨシ、アシを農家の人が刈り取ったり、あるいはいろいろな手仕事の材料、萱ぶきとかヨシズとかそういうものに使ったりしていました。いい意味での循環型社会が形成されていたから成り立つわけですけど、今それがもう浚渫も、ヨシ、アシ、カヤの利用もない中で、自然を守っていくには、手を入れていかないと成り立たない部分もあります。鳥屋野潟の今の治水安全度の向上とか、水田を守るということと、私は両立させていくべきだと思っています。

【佐 藤】自然保護 - 治水・防災・周遊歩道

自然保護はしていただかなくてはいけないなと思っています。ただ鳥屋野潟というのはそんな山奥や辺鄙（へんぴ）な場所にあるのではなくて、まちの真ん中にある湖、潟なのです。だから例えば朝日連峰にある大鳥池とかのような感じにはできないと思います。やはり治水、防災、そして市民が周遊歩道などで利用し、そして自然と、この3つを鳥屋野潟のあるべき条件に照らし合わせて、バランスよく整備していくことが一番大事ではないかと思っています。

【篠 田】鳥屋野潟 - 湖底地権

鳥屋野潟の一番難しいところは湖底地権を整理しなければだめだということだと思います。それを今やっと県が大難儀してやっていただいたわけですから、これから本格的に鳥屋野潟について、われわれが議論し、また市民の財産にしていくことができるその土台ができたんだということを確認したいと思います。

治水 - 水質改善を含めた浚渫

これまでは、中央の水路以外は、浚渫もできなかったわけです。今後考えなきゃだめなのは、まず治水をどうするか。治水の面が一番最優先です。それと同時に、ある程度浚渫しないと。これではボートも浮かべられない、そんなところも数多く出てきている。浚渫をどの程度やるべきなのか、浚渫した土砂はどこかに持っていかなければなりません。浚渫土砂、遠いところに持っていけばいくほど高くなるわけですから、一定の浚渫土を私は湖岸堤というのか遊歩堤というのか、そこへ活用すべきではないか。よって貯水能力も高まり、結果的に、築堤の高さも低く抑えられるのではないかというふうに思っています。これは学者方のしっかりした議論をいただきたい。この部分が一番のポイントで、浚渫をしなければ潟は埋まるし、水質の改善という面にも限界があります。私のような政治家が言うことではなく、技術的なしっかりとした専門家から議論をしていただいて、もう一つ土台を固めていただくということが重要だと思います。新潟市としては、多くの方が安心して湖面を見ながら歩けるという場所を、周遊する機能が備わればいいのではないかというふうに、個人的には思っています。

鳥屋野潟 - ゾーニング

そして専門学校の学生の方から大変夢のある発表をいただきました。

ゾーニングについてやっていくということも、基本的にいいのではないかと思います。ゾーニングのときに今ある機能、例えばお話にあった天寿園もございますし、新潟市は食育花育センターをつくりました。動物ファームもまもなくオープンします。こういういろいろな機能がもうすでにあるわけです。テルサもございますし。それらを活用してゾーニングをするとどうなるのか。これだけもう楽しめる機能があるということをよく認識していただきたい。無理やり潟を埋めたり、潟の近くに新しいものをつくらなくてもいいというのが、南側に特に数多く広がっている。

北側はあの道路を使わなくし、新しく道路を作れといったら、それだけで鳥屋野潟整備と同じぐらいの事業費がかかり、何十年もかかってしまいます。これは現実的ではないと思っており、やはり北側のほうは安心して歩けるスペースが必要ではないかと思います。多少の芝生広場、やすらぎ堤もそうですが、信濃川に少し泣いてもらって、新大の大熊先生に言わせれば泣かせすぎだというご意見もあります。あそこはやすらぎ堤ができたおかげで、ものすごく新潟のまちが変わりました。新潟市民が多く信濃川のほとりを歩き、国が堤防そのものをやり、新潟市が植樹をやるということで役割分担をし、事業のピッチを上げたわけです。

治水それから水質改善を含めた浚渫

従ってまず治水とそれから水質改善を含めた浚渫を一番の土台とし、そのところを大体決めておけば、取り返しのつかないまづいことになった、ということにはならないと思います。やすらぎ堤も、最初目立たないところでモデル、実験でつくりましたが、そんな目立たないところでやるなど、目立つところでやって市民の声を聞いたら、これはやっぱり欲しいと。信濃川に少し申し訳ないけれども、やすらぎ堤は治水面だけではなく、新潟市民にとっていいゾーンになるということを多くの市民が確認をし、今のような形になったということなので、十分参考になります。

この鳥屋野潟の整備は2～3年でできるようなものではなく、目につくところから改善していくこと。私は鳥屋野側の北側だろうというふうに思いますし、弁天橋のところもございます。あそこの所辺りが一番湖底地権がきちりと設定されていて、浚渫なんかやったらすぐ怒られる。そういう所でした。それが今後しっかり浚渫ができるようになれば、あの辺りもヘドロが浮いているようなところはきれいになり、それだけで環境改善になるわけですし、新潟市民の誇りにもつながります。できるだけ今ある環境、そして機能、これを活かしながら、新潟県さんにまず最低限、この治水機能、そして水質浄化、ここは必要だということを、学者の方々に叩いていただければ、おのずから方向は出てくるのではないかとこのように考えています。

【皆 川】 ありがとうございます。パネルディスカッションとフロアとの意見交換がこれで終わるわけですが、最後に私のほうから感想を申し上げて終わりにしたいと思います。

新潟県の河川整備課から叩き台が提案されたということでございます。一生懸命叩きましょう。みんなで叩き、いいものをつくりましょう。

先ほども紙谷先生からお話が出ました、十分議論をすることが大切だということにおっしゃっていました。私もその通りだと思っています。行政の事務方では、それぞれお役所

の事務方の連絡調整会議が持たれている。そういう中で役割分担等の話が進められています。同じように市民と行政との話し合いが続けられるような、そういう機会をこれからも持っていただきたいと思います。

鳥屋野潟の話を今後も継続

鳥屋野潟の市民レベルの話し合いは始まったばかりです。市民と行政との話し合いのパイプが詰まらないように、両方の立場でパイプを詰まらせないように、これから話し合いを進めていっていただき、そういう機会が継続できることを願って、今日のパネルディスカッション及び意見交換会のまとめとさせていただきます。

ご参加の皆さん、大変ご協力ありがとうございました。

7 . 閉会あいさつ

中央区長 仁多見 浩 氏



本日は本当に長時間にわたり、鳥屋野潟シンポジウムにご参加いただきまして、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

このシンポジウムをお聞きになっていかがでございましたでしょう。

中央区自治協議会の「水辺とみなとのまち部会」、本当に長い時間をかけて、今日まで準備をしまっていました。その成果を、本日皆さまにお披露目いただいたわけでございます。

本当に改めて鳥屋野潟というのは、いろいろな側面を持っているんだなとフロアの皆さまからのご意見をお聞きしながら、よく分かりました。一方では防災面、治水面、あるいは都市の近郊にあるという中での人との共生、親水空間、あるいは自然環境保護と、いろいろなお立場の中からいろいろなご意見があることがよく分かりました。

先月私ども中央区が開催をしております、「とやの物語」で、子どもたちから、「未来の鳥屋野潟」の絵を募集いたしました。105点の応募がございまして、一点一点見させていただいたのですが、夢あふれる素晴らしい作品でございました。こんな子どもたちの思いを合わせながら、あるいは皆さまの先ほどのご意見等々を考えながら、今後この鳥屋野潟の整備に向けて、どのようにして進めていったら良いのか。皆川さんの話にもありましたが、しっかり議論をしながら、進めていくということが大事だなと思っております。

今後ともぜひ、この鳥屋野潟の整備に向けて、皆さま方、ご議論をいただきますとともに、今日のシンポジウムがそんな機会の一助になったということであれば、幸いです。

本当に今日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

8 . アンケート集計結果

1) アンケート実施の目的

シンポジウムに参加された皆様に対して、日頃、鳥屋野潟に対してどのように感じているか、また、シンポジウムを聞き、どのように関心を抱いたかを把握することを目的とする。

そして、皆様の意見、感想を今後の鳥屋野潟のあり方へ反映させていくことを目的とする。

2) アンケート実施概要

調査実施日：平成 24 年 10 月 28 日（日）
「鳥屋野潟シンポジウム」開催時

配布対象者：「鳥屋野潟シンポジウム」聴講者全員

回収枚数 : 139 票

3) アンケート設問

選択設問：鳥屋野潟北湖岸について
鳥屋野潟全般について

記述設問：鳥屋野潟への思いや提案について
シンポジウムについての感想や意見

回答者の属性：住まい、性別、年齢

4) アンケート調査票

鳥屋野潟シンポジウム アンケート

本日は当シンポジウムへご参加いただき誠にありがとうございます。
今後の取り組みの参考とさせていただきますので、恐れ入りますが、以下のアンケートにご回答いただき、
シンポジウム終了後、出口の受付に提出いただきますようお願いいたします。

1 鳥屋野潟北湖岸(弁天橋から上沼)についてお尋ねいたします(数字に○を付けてください)

- ①遊歩道について (1 遊歩道が必要 2 遊歩道は不要 3 どちらでもよい)
(現状はない)
- ②車道について (1 現状のままでよい 2 改良が必要 3 車道は不要)
- ③桜並木について (1 現状のままでよい 2 全木更新 3 劣木のみ更新)
- ④水辺空間の活用について (1 現状のままでよい 2 活用した方がよい 3 どちらでもよい)

2 鳥屋野潟全域についてお尋ねいたします(数字に○を付けてください)

- ①湖岸堤について (1 現状のままでよい 2 市民参画による整備 3 行政主導の整備)
- ②潟周辺散策について (1 よく行く 2 たまに行く 3 行ったことがない)
- ③潟の景観について (1 現状のままでよい 2 自然環境は維持 3 整備が必要)
- ④遊船・ポートについて (1 あった方がよい 2 ない方がよい 3 どちらでもよい)

3 鳥屋野潟へのあなたの思いや提案をご記入願います。

4 本日のシンポジウムについて、感想意見をご記入願います。

5 あなた自身についてお尋ねいたします(数字に○を付けてください)

- ①あなたのお住まいは？ (1 中央区 2 中央区以外)
- ②あなたの性別は？ (1 女性 2 男性)
- ③あなたの年齢は？ (1 30歳未満 2 30歳～59歳 3 60歳以上)

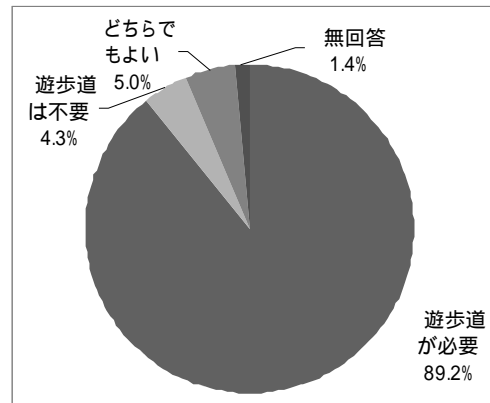
御協力ありがとうございました。このアンケート用紙は出口の受付にて回収いたします。

5) アンケート結果

(1) 鳥屋野瀉北湖岸（弁天橋から上沼）についてお尋ねいたします

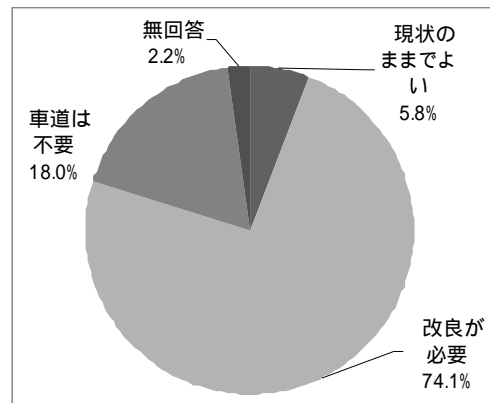
遊歩道について（現状はない）

		票	%
1	遊歩道が必要	124	89.2
2	遊歩道は不要	6	4.3
3	どちらでもよい	7	5.0
4	無回答	2	1.4
合計		139	100.0



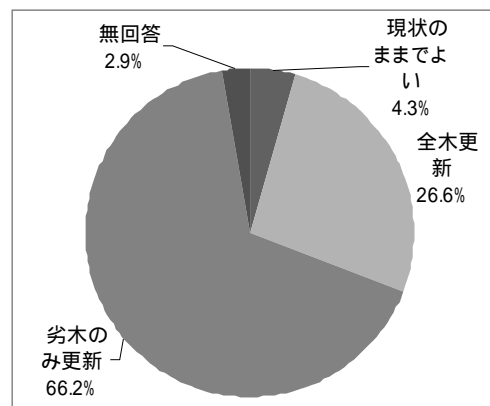
車道について

		票	%
1	現状のままでよい	8	5.8
2	改良が必要	103	74.1
3	車道は不要	25	18.0
4	無回答	3	2.2
合計		139	100.0



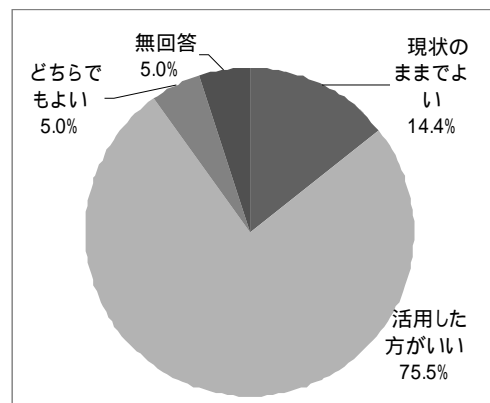
桜並木について

		票	%
1	現状のままでよい	6	4.3
2	全木更新	37	26.6
3	劣木のみ更新	92	66.2
4	無回答	4	2.9
合計		139	100.0



水辺空間の活用について

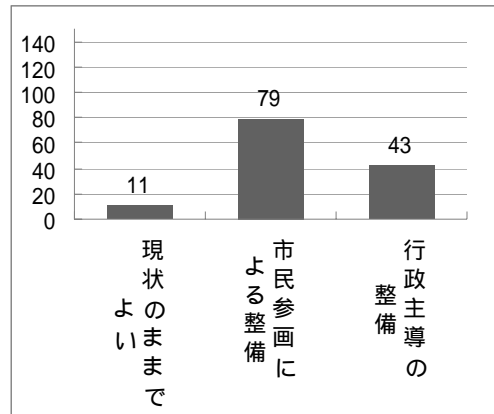
		票	%
1	現状のままでよい	20	14.4
2	活用した方がよい	105	75.5
3	どちらでもよい	7	5.0
4	無回答	7	5.0
合計		139	100.0



(2) 鳥屋野潟全域についてお尋ねいたします（数字に を付けてください）

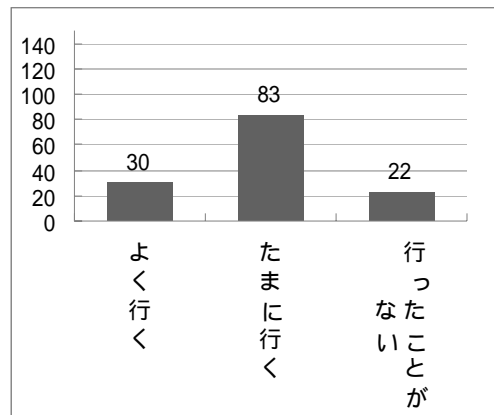
湖岸堤について

		票
1	現状のままでよい	11
2	市民参画による整備	79
3	行政主導の整備	43
合計		133



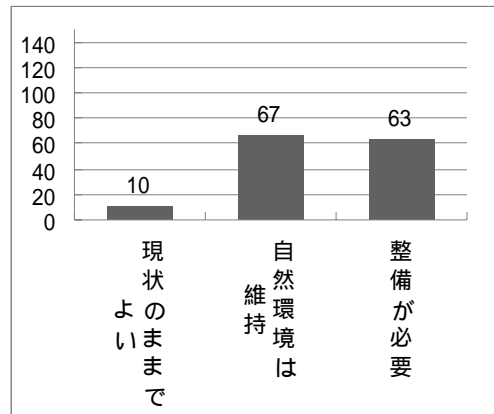
潟周辺散策について

		票
1	よく行く	30
2	たまに行く	83
3	行ったことがない	22
合計		135



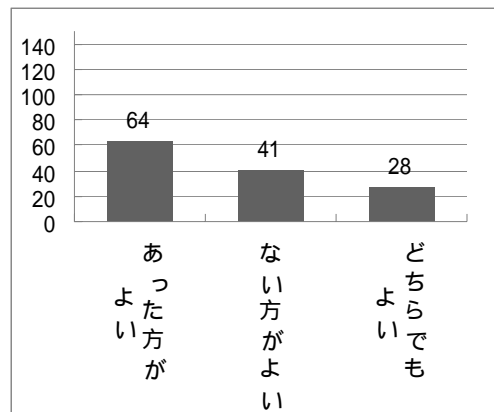
潟の景観について

		票
1	現状のままでよい	10
2	自然環境は維持	67
3	整備が必要	63
合計		140



遊船・ボートについて

		票
1	あった方がよい	64
2	ない方がよい	41
3	どちらでもよい	28
合計		133



(3) 鳥屋野潟へのあなたの思いや提案をご記入願います。

桜並木について

- ・ 桜並木は必要
- ・ 季節感を考え整備を行う
- ・ 一種類だけでなく他の種の桜も考えるとおもしろい
- ・ 桜並木の保全是、新しい木を植えるのではなく鳥屋野潟の環境に適合した現存木の子孫を活用
- ・ 根が重ならないよう間隔を考える
- ・ 桜並木のために車を制限した方がよい

遊歩道について

- ・ 市民が身近に自然とふれることが出来る場所として遊歩道は作ってほしい
- ・ 歩行者だけでなく自転車も通れるスペースを確保する
- ・ 周遊路は一部だけで、全体にやることは絶対に反対である

車道(鳥屋野潟の周遊路、道路)について

- ・ 車輛の危険を考え、道幅を広げる
- ・ 車道拡幅は、通過交通量を増大させる。交通利便性と潟の両立はなかなか難しい

築堤について

- ・ 築堤は絶対にやめてほしい
- ・ 出来るだけ早急に湖岸堤の築造を
- ・ 市民を災害から守るために築堤は必要

水辺空間について

- ・ ヨシは水の浄化として大切
- ・ せっかくいい景色があるのに水辺に近づけない。ヨシで視界がさえぎられている
- ・ 水をきれいにしなければ何もはじまらない
- ・ 市街地の中の貴重な水辺空間である
- ・ 親水、子ども達が水遊びできるような場に

その他

- ・ 鳥屋野潟の自然を大切に、共存することを考えていきたい
- ・ 自然に負荷がかからない方法で活用していけるように
- ・ 鳥屋野潟は動植物の大切な生息、生育空間である
- ・ 散策も遊覧船もあってほしい
- ・ 市民の貴重な財産である。公平な整備を
- ・ 観光スポットとしての開発を
- ・ 観光中心にしないでほしい
- ・ 自然への配慮ある治水、市民生活を守るための治水を
- ・ 北側の整備を早くやってほしい
- ・ 道路周辺の草刈りが必要
- ・ 維持管理が適切にできるかどうか
- ・ 景観を良くするための整備を
- ・ 公園として整備してほしい
- ・ 子ども達の教育の場、楽しめる環境
- ・ 誇れる観光資源、財産である
- ・ 市民の貴重な財産 公平な整備を

(3)の自由記述の全文(原文)については資料編の 65 ページ以降をご覧ください。

(4) 本日のシンポジウムについて、感想意見をご記入願います。

桜並木について

- ・ 桜並木を切らさないように計画して欲しい
- 鳥屋野潟の整備等(遊歩道、治水等)について
- ・ 治水と歩道整備を第一に
 - ・ 新潟に人を呼ぶ方面でも開発、整備を
 - ・ 防災第一 親水利用も
 - ・ 市の具体計画を早急にとりまとめ、実行に歩を進めてほしい
 - ・ 公園、河川、景観など様々な視点での検討が必要
 - ・ 箱物はもういらない
 - ・ 市民の意見をもっと聞き入れて、整備は急がずに
 - ・ 利用、開発と保護、保存が対立しない道を求め続けることは大変だが、絶対必要
 - ・ 市民が桜をながめたり、ウォーキングしたり、散歩したり日常的に楽しめるところに
 - ・ 子供が遊べるスペースを、水遊びできるように
 - ・ 冬場も利用できるような対策を

シンポジウムの感想

- ・ さまざまな立場、専門分野、考え方があったことがわかった
- ・ 若い人の意見をもっと聞く仕組みが欲しい
- ・ 若者から高齢者まで参加したいと思えるシンポジウムに
- ・ 鳥屋野潟を知る、感じる、見る新たな気づきができる良い機会であった
- ・ 大勢の意見を反映させるためシンポジウムを継続してやって欲しい
- ・ 市民の意見をとりまとめる良い機会 市民との対話をもっと必要と感じた
- ・ 鳥屋野潟のあり方の方向性が良くわかった
- ・ 治水機能について理解しやすかった
- ・ 説明してくださる詳細な資料が手元にあると良かった
- ・ 皆さんの真剣な意見に感動した

専門家のお話について

- ・ 心強い意見だった
- ・ 住民、行政、専門家の考え、多方面に話し合いが出来よかった
- ・ 行政と市民、関係団体との話し合いが必要
- ・ 紙谷氏の「潟と人との近くなる」コンセプト(築堤)に賛成である

その他

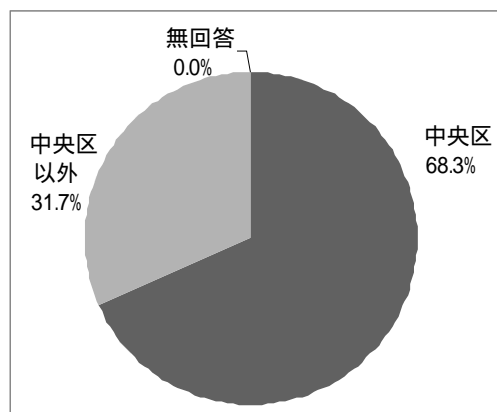
- ・ 経済関係、企業経営者の方からの提案、意見も聞いてみたい
- ・ 鳥屋野潟までの交通アクセスを
- ・ 新潟市は潟学をおこせ!
- ・ 「自然」や「環境」を大切に
- ・ 子供達や次世代の人々に役立つものは何か、よく考えて欲しい
- ・

(4)の自由記述の全文(原文)については資料編の69ページ以降をご覧ください。

(5) あなた自身についてお尋ねいたします（数字に を付けてください）

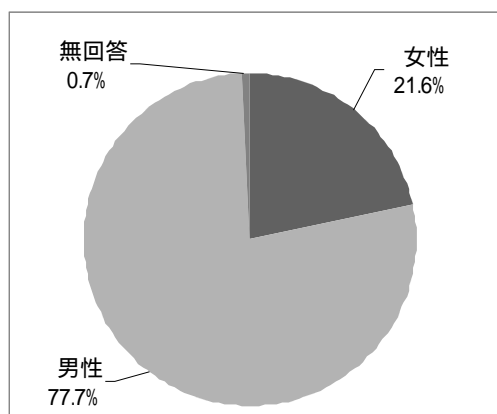
あなたのお住まいは？

		票	%
1	中央区	95	68.3
2	中央区以外	44	31.7
3	無回答	0	0.0
合計		139	100.0



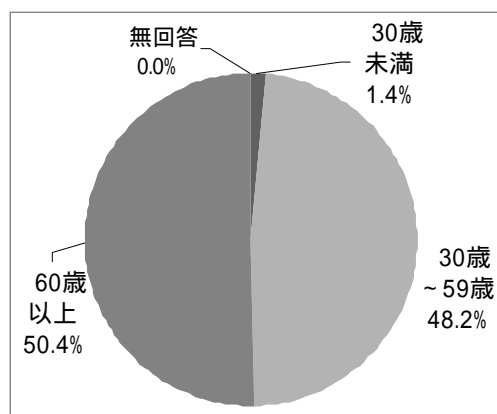
あなたの性別は？

		票	%
1	女性	30	21.6
2	男性	108	77.7
3	無回答	1	0.7
合計		139	100.0



あなたの年齢は？

		票	%
1	30歳未満	2	1.4
2	30歳～59歳	67	48.2
3	60歳以上	70	50.4
4	無回答	0	0.0
合計		139	100.0



資料編

No.1 平成 24年10月 28日

鳥屋野潟調査(桜並木と湖周道路) 結果報告

中央区自治協議会
水辺とみなとのまち部会

香田 和夫

No.2

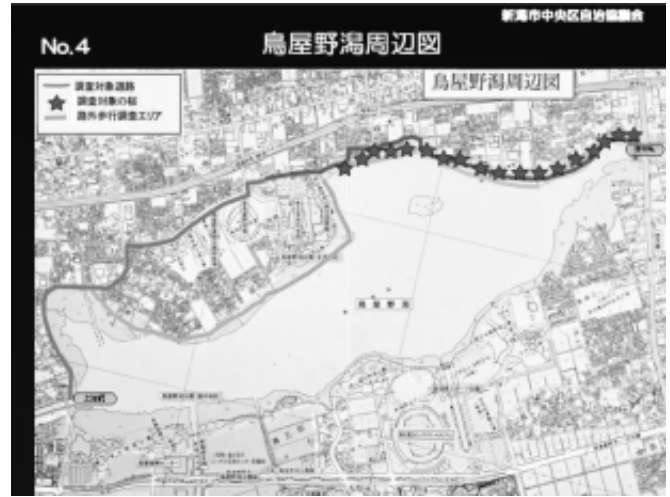
発表内容

- (1) 概要
- (2) 調査内容と方法
- (3) 調査結果
 - ① 樹木活力度調査
 - ② 湖周道路調査
- (4) 解析・評価
- (5) 最後に

No.3

急がれる鳥屋野潟北部の整備

- 鳥屋野潟南部は「鳥屋野潟南部開発計画」に基づいて整然と整備が進んでいます。
- しかし鳥屋野潟北部は、早くから宅地開発されたが、それは不規則であり雑然としている。



No.5 新潟市中央区自治協議会

桜活力度調査項目

- ① 樹木No.: 調査対象の桜にナンバーテープを設置
- ② 形状: 「樹高」「胸高直径」「枝張り」を計測
- ③ 齢級: 形状や肌合い等から、「幼齢・壮齢・老齢」
- ④ 樹勢・樹形: 4段階に区分して評価
- ⑤ 病虫害: テングス病、キノコ、その他
- ⑥ 外傷・腐れ: 主幹と太枝の損傷の大きさ、程度
- ⑦ 根元周囲: 根の踏み固め、すりむけ等
- ⑧ 総合評価: 「桜の健全性」を、A～Eで評価

No.6 新潟市中央区自治協議会

桜調査結果の概要(計167本)

【齢 級】	【キノコ】
幼齢樹(1～20年生程度) : 4本(2.4%)	確認 : 31本(19%)
壮齢樹(20～40年生程度) : 34本(20.4%)	無し : 136本(81%)
老齢樹(40年生以上程度) : 129本(77.2%)	
【主幹の損傷等】	【その他】
外部損傷無し : 30本(18.0%)	テングス病 : 2本(1.2%)
外部損傷 小 : 18本(10.8%)	根元の踏み固め : 46本(27.5%)
外部損傷 中 : 46本(27.5%)	根の剥け、損傷 : 29本(17.4%)
外部損傷 大 : 71本(42.5%)	
枯死 : 2本(1.2%)	
【総合評価】	
評価A(良) : 3本(1.8%)	
評価B(やや不良) : 24本(14.4%)	
評価C(かなり不良) : 67本(40.1%)	
評価D(著しく不良) : 71本(42.5%)	
評価E(枯死) : 2本(1.2%)	



No.13

鳥屋野潟の桜



新潟市中央区自治振興会

No.14

すり傷



No.15

新潟市中央区自治振興会



No.16

新潟市中央区自治振興会



No.17

キノコ

新潟市中央区自治振興会



No.18

新潟市中央区自治振興会





No.20

ソメイヨシノの特性について

- ①園芸種：
エドヒガンとオオシマザクラの交配種
- ②寿命：
一般的に、平均60歳程度が寿命とされる
- ③心材と辺材：
幹の中心部が枯死しても、外周が生きていれば花は咲く（ただし、倒れやすくなる）
- ④「忌地（いやち）」：
同じ場所に次の桜苗を植えると、生育不良になりやすい

No.21

桜：今後の対策について(案)

- ①維持管理：
放置・要観察・（伐採）・伐採
- ②幹空洞部の処理：
腐れを処理後、ピートモスやミズゴケ等を充填
- ③新規植栽：
植栽位置の変更、土壌の改善・入れ替え
- ④根の踏み固め防止：
簡易な車止め、根元周囲に花の植栽、等
- ⑤樹種の転換：
長寿命の桜へ植え替え（例：エドヒガン）

No.22

湖周道路の調査方法

- ①既存の道路部分と、道路が無い部分とに区分
- ②既存道路部分は12ゾーンに区分し、現在の道路構造と桜のまわりの歩行空間、及び瀉等の見え方を調査
- ③道路の無い部分は6ゾーンに区分し、歩行の可能性や土地利用状況、景観について調査





No.31

新潟市中央区自治振興会




No.32

新潟市中央区自治振興会

ご清聴ありがとうございました



Concept



～共存～

鳥屋野湯と地域の関わり、
鳥や動物と人との関わり。

生き物と共存し、
空間を共有しつつ
お互いの独自性を守り、
暮らしやすい環境をつくる。



ファミリーゾーン




- 白鳥をモチーフとした中核施設
- ・展望台
- ・物産品 米
 - 地酒
 - 米菓
 - 笹田子
 - 発酵食品
 - (漬物、味噌、醤油、納豆)
- ・レストラン、カフェ



◦ 核橋

- ・鳥屋野湯の真ん中に浮いている気分
- ・真ん中から景色を一望できる
- ・風や自然を感じられる

ファミリーゾーン



- ・桜並木
- ・お花見スペース
(環境を壊さないデッキ)

子供・地域ゾーン



- ・物見台 ひみつ基地感覚で子供達が遊べる空間。
- ・ペットなどのお散歩コース (Fogラン)



- ・アスレチックの設置
(子供の遊び場、お年寄りのトレーニング)

カップルゾーン

☆

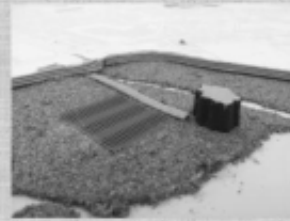


- ・春には桜並木を歩ける遊歩道
- ・鳥屋野潟沿いにデッキを設け雰囲気の良い空間



- ・ポケットパークの設置
(ベンチ、休憩スペース)

女性ゾーン



- ◆ 切り株をモチーフにした美容施設
- ・屋上テラス
夕日や星が見える
- ・お米を使った美容スパ
足湯、銭湯、岩盤浴
ゴツゴツの足つぼマッサージ
(無料で誰でも利用できる)
- ・カフェ
米粉パン
米粉クッキー 等

- ・小川のような部分を整美→ホテルの集まる場所、水遊びのできる憩いの場

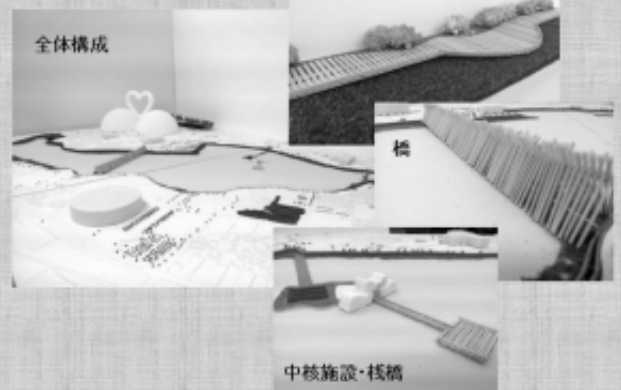
渡り橋



- ・渡り鳥が警戒しないような鳥の巣をイメージしたデザイン
- ・冬季期間の閉鎖



模型展示



全体構成

デッキ

橋

中核施設・棧橋

活用プラン



- ・周遊プラン
- ・マップズリ
- ・スタンプラリー



- ・観光バス、循環バス
- ・季節ごとのイベント、風景



Swan Lagoon
~TOYANO~

END



平成24年10月28日
鳥屋野潟シンポジウム

鳥屋野潟の現況と整備について

新潟県土木部 河川整備課長
美寺寿人

市民が誇れる鳥屋野潟の素晴らしさ

市街地の中の豊かで広大な水辺環境



鳥屋野湖は広大な水面を有しています。
水面面積は約140haです。

4



昭和20年代くらいまでは“清五郎と女池間を泳いで往復したら一人前”と言われていたそうです。

5

環境特性図

鳥屋野湖はハクチョウやカモ等の渡り鳥の集積越冬地です。平成21年度の調査(冬・秋)では、最大で12,216羽のハマヅリ、ハクチョウ類が確認されました。

湖を取り囲んでいるヨシ群落(水色)は動植物の生育・繁殖の場となっています。

558年以降に実施された調査では、植物の重要種が34種確認されています。

環境特性

S60年 H10年 H23年

近年の調査結果(H9～)から、鳥屋野湖の湖内のアサザの分布が拡大していること、メダカの生息が復活したこと、スジエビなどの生息密度が増していることが確認されています。それにより、鳥屋野湖の水質環境および底質環境が改善されており、汚濁対策や浚渫によるヘドロ除去などの効果が確実に表れていると考えられます。

備考: アサザは鳥屋野湖において絶滅が危惧された植物です。アサザは水深1m前後の砂底質の生育を好む多年草です。水質や底質環境が改善されたことによってアサザの分布が広がっていると考えられます。

アサザの分布の推移

出典: 新潟県「平成21年度鳥屋野湖環境調査報告書」

10月8日に行われた秋の鳥屋野潟一斉清掃

汚濁対策やヘドロの浚渫以外に、地域住民の皆様の熱心な清掃活動なども行われています。



3



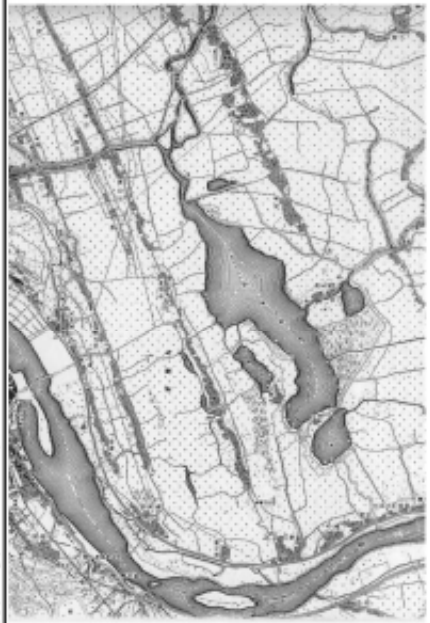
治水能力の向上が必要

①鳥屋野潟の治水方式

4

昭和のはじめ頃

昭和のはじめ頃、鳥屋野潟は栗ノ木川を通じて日本海と直接つながっていました。その後、栗ノ木排水機場が昭和23年に建設され、昭和43年にそれに代わる観松排水機場が完成し、現在の姿になりました。



この地図は、国土院地政院の地図をもとに、同院発行の2万5千分1縮尺図を複製したもので、(地図番号 平24精縮 第500号)

10

鳥屋野潟流域の地盤高

鳥屋野潟流域は標高5m未満の低平地に広がっています。



この地盤高図は国土院地政院管内河川図(21計画)を基いて作成した。

11

鳥屋野潟 排水路網図

鳥屋野潟流域内には、土地改良区が管理する排水機場と下水道のポンプ場が計4ヶ所あります。(下図の青色の箇所)
また潟の出口には鳥屋野潟排水機場と親松排水機場があります。(下図の赤色の箇所)



12

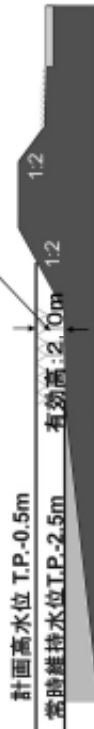
鳥屋野潟の遊水効果

鳥屋野潟では、常時維持水位から計画高水位までの2mを有効活用しています。

(遊水効果を見込んでいます)
有効高2mを大きくすると理論上、鳥屋野潟で貯留できる量が増えます。しかし、そのためには計画高水位を上げる、または常時維持水位を下げるしかありません。下図に示しているように、これらの高さを変えると不具合が生じます。よって、現時点では、有効高は2mが最適な計画といえます。

(約350万m³、現況水面積140ha)を有効活用

※これ以上「計画高水位」を高く設定すると、背後地盤からの排水に不具合が生じる。

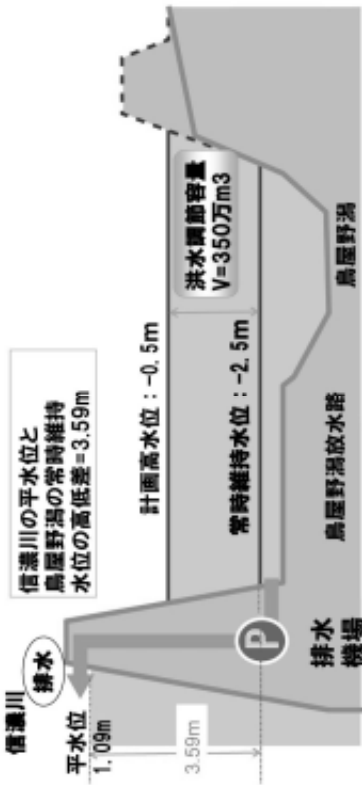


※これ以上「維持水位」を低く設定すると、
・地盤沈下の恐れが生じる。
・揚水機場に運搬費が生じる。

14

断面模式図

親松排水機場により鳥屋野潟の常時維持水位-2.5mは、信濃川の平水位よりも3.6m低く、日本海よりも約3m低く維持されています。
洪水時に親松排水機場と鳥屋野潟排水機場によって、信濃川本川に排水できない水量が鳥屋野潟に貯留されます。貯留できる量(洪水調節容量)は常時維持水位から計画高水位までの部分で、約350万m³の容量(ヒックスワンの約2杯分の容量)に相当します。



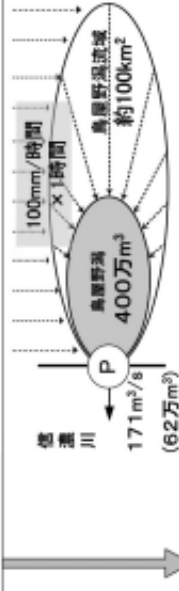
13

鳥屋野潟の貯留容量350万m³とは、一体どのくらいの量なのか

鳥屋野潟流域で
一概に1時間で
100mmの雨が降
ると想定します。

1時間で降る雨の量 × 降っている時間 × 鳥屋野潟の流域面積
=(100mm/1時間) × (1時間) × (100km²)
= 0.1m / 1時間 × (1時間) × (1,000万m²)
= 1,000万m³ ⇒ 鳥屋野潟流域で1時間に降った雨の量は1,000万m³に相当します。

これにより
鳥屋野潟に、
降った雨の4割が流出すると同様に想定すると、
1,000万m³ × 0.4 = 400万m³ の流出量が鳥屋野潟に集水されます。




流域内全体の
ポンプ排水量
= 171m³/秒に
より、

1時間で鳥屋野潟に集水された水量 = 1時間でポンプによって排水される水量
= 400万m³ - (171m³/秒 × 60秒 × 60分)
= 400万m³ - 62万m³
= 338万m³ ⇒ 1時間で鳥屋野潟に貯まる量(鳥屋野潟の貯水容量350万m³)

注意: 数値は、別の貯留量を簡単にイメージして頂くためのものです。実際には詳細な設計をしております。

15



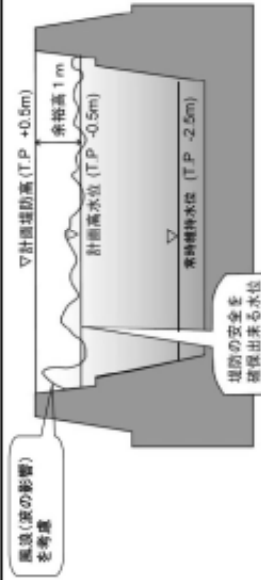
治水能力の向上が必要

② 堤防の構造と機能

16

河川整備計画における余裕高

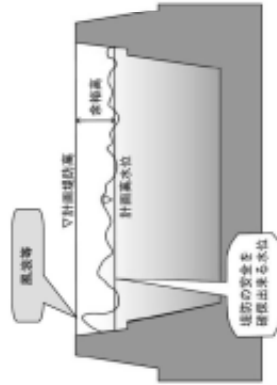
- 堤防の高さは計画高水位に余裕高を加えた値以上に設定されます。
- 余裕高は、河川管理施設等構造令により数値が定められています。
(現在、鳥屋野渚の堤防は、低いところの他に、この余裕高に相当する高さが不足しています)
- 河川整備計画における堤防天端高(余裕高)は、鳥屋野渚の水面積は140haと広大であるため、風浪(波の打上高)を考慮して1.0mに決定しています。



**鳥屋野渚整備実施計画における堤防の余裕高は、
諸条件の見直しを行い、現在検討中**

17

余裕高の機能①



湖沼における風浪の発生状況(霧ヶ浦)

出典：国土交通省 湖沼地方整備局 霧ヶ浦河川事務所
「第11回湖沼管理普及交換会」
<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00041.html>

洪水時の風浪等による越水・溢水被害の防止

18

余裕高の機能②




水防活動の状況 (H16.7.13)
五十嵐川右岸三桑市三竹地区



H16.7.13水害時の水防活動
刈谷田川(見附市)

洪水時の巡視・水防活動時の安全確保

19



治水能力の向上が必要

③現状の評価

20

新潟市内の浸水状況(平成10年8月洪水)



洪水による交通渋滞(新潟市東大通路内)



新潟駅南口の浸水状況



鳥屋野湯周辺の浸水状況

平成10年8月洪水では新潟市内のほぼ全域で、大規模な浸水被害が生じました。

H10.8の浸水実績図

- 平成10年8月の洪水では総雨量265mm、60分間の最大雨量97mmが記録されました。
- 鳥屋野湯流域では、住宅や事業所などの家屋が床上床下併せて、5,132戸に浸水被害が生じました。(住家被害:床上593戸、床下3943戸、事業所等:床上395戸、床下201戸)
- 鳥屋野湯流域の一般被害額は、約457億円に及ぶ甚大な被害となりました。



平成10年8月4日の浸水状況 (濁水位は現況地盤高を超過し、一部区間で溢水)



濁からの溢水により、浸水被害が拡大



鳥屋野湯


鳥屋野潟からの溢水状況写真



治水能力の向上が必要

- ①信濃川へ排出する100m³/sのポンプが完成しており、平成10年当時から見れば治水安全度も向上しています。
- ②しかし、計画高水位より低い区間や構造上の余裕高が不足している区間があるため、安全に貯留できる量として約130万m³が不足しています。
- ③このために、湖岸堤の整備が必要です。

34



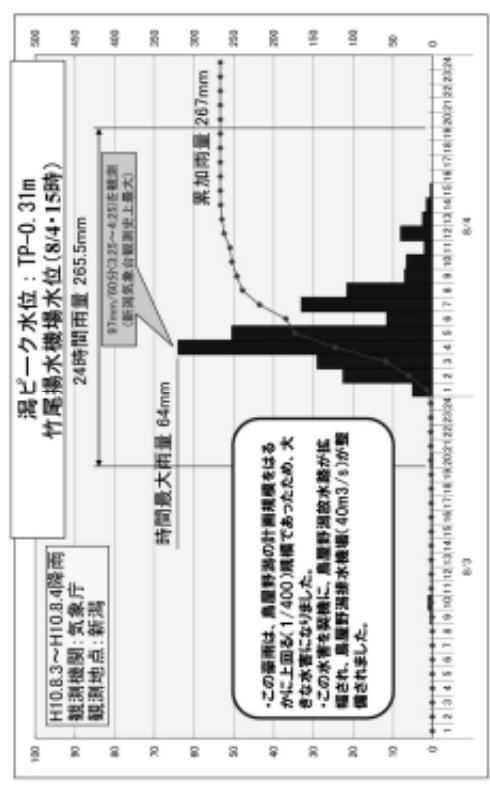
治水能力の向上が必要

④そうは言っても、昨年の豪雨でも、これまでのポンプの整備によって対応できたのに、湖岸堤の整備が必要なの？

36

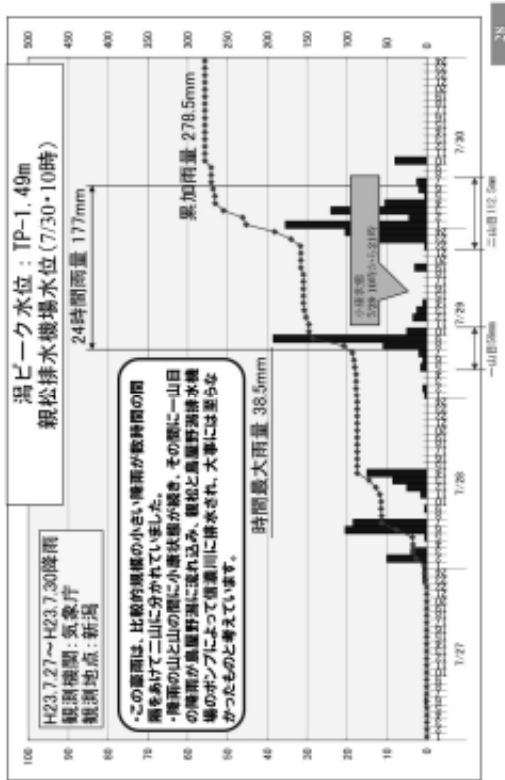
35

平成10年8.4水害(累加雨量267mm)



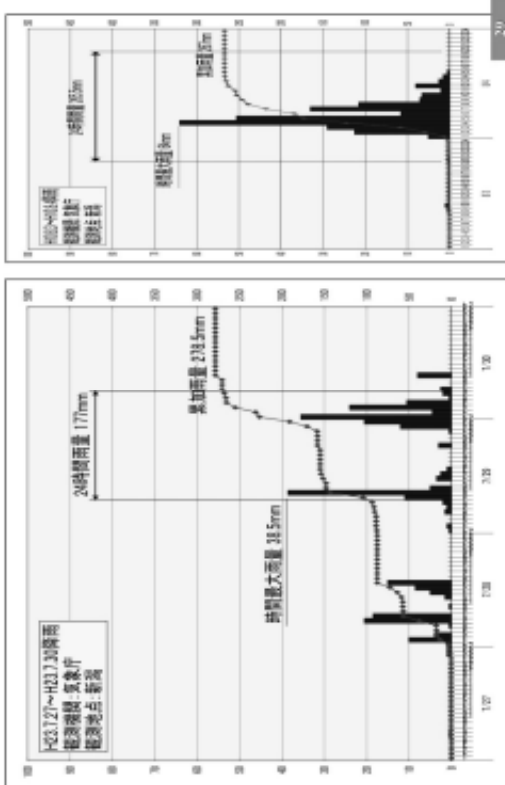
37

平成23年7月新潟・福島豪雨(累加雨量270.5mm)



28

平成23年7月新潟・福島豪雨と平成10年8月水害の比較

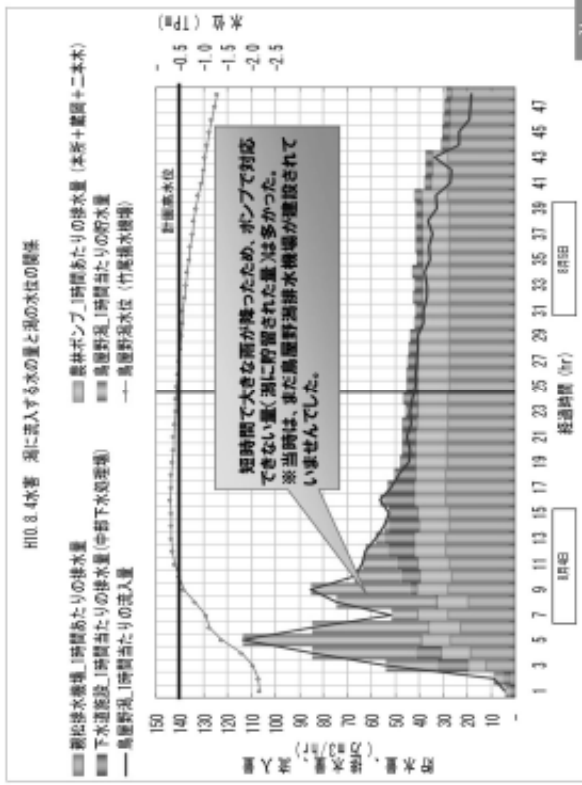


29

降雨の強さや降り方により洪水流量が変わります。

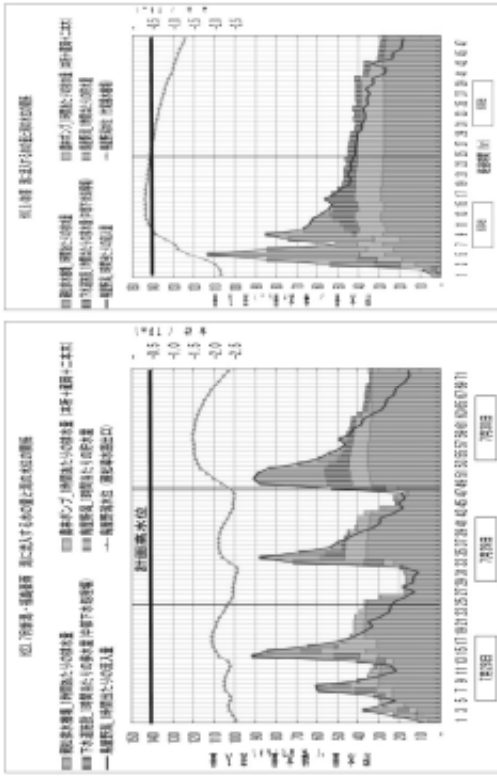
- 朝夕の車通勤による渋滞と似ています。
- みんなが一斉に始業時間に合わせて出勤するために、朝夕の渋滞が発生します。
- 時差出勤を行い、分散して平準化した出勤形態なら、渋滞は緩和されます。
- 同じようなことが洪水にもいえます。車は人間が運転しているので渋滞ですみませんが、流水は止まってくれません。

30



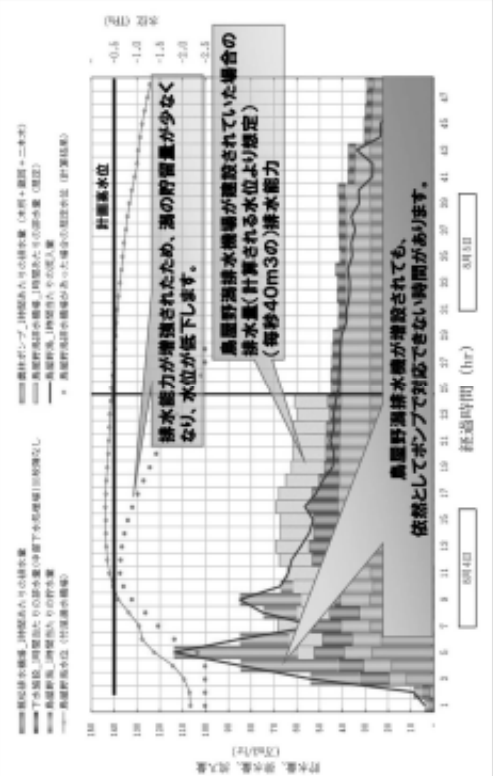
31

平成23年豪雨と平成10年豪雨の違い

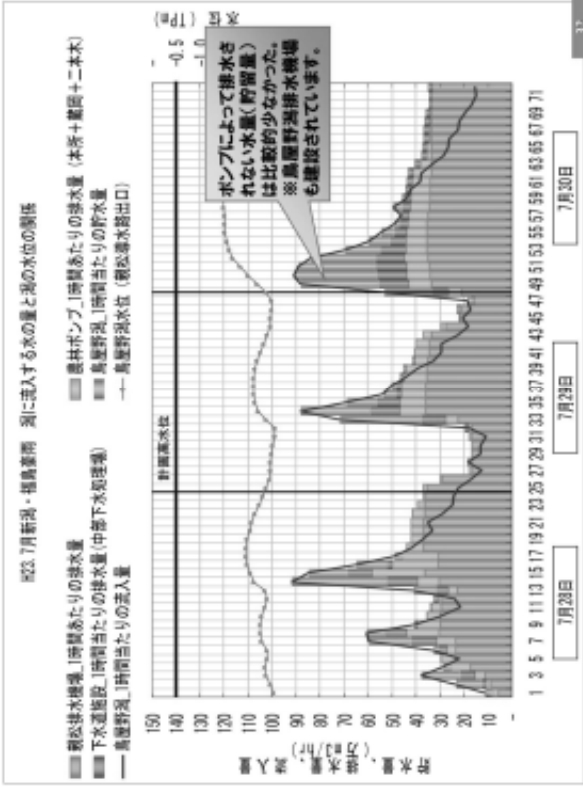


33

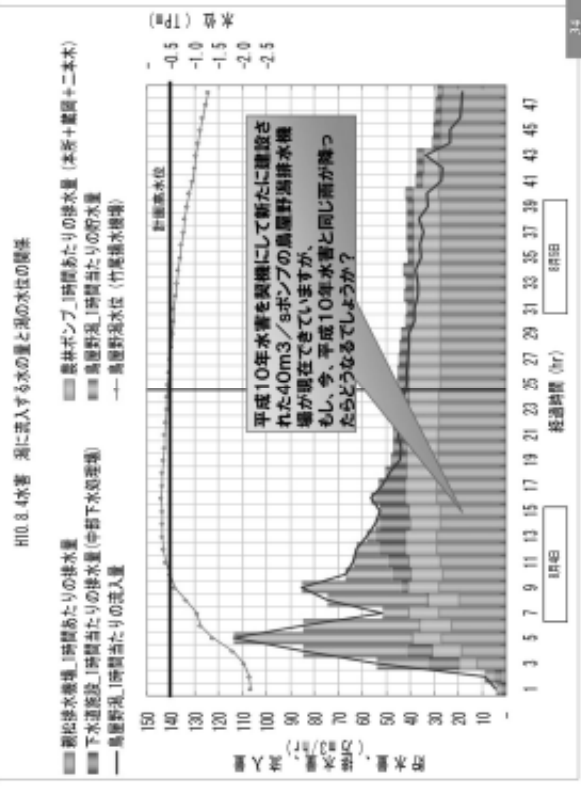
イメージ:H10.8.4水害の時に鳥屋野排水機場が完成していたら



35



32



34



治水能力の向上が必要

⑤ 築堤をすると宅地の水がはけなくなるのでは？

36

鳥屋野潟に注ぐ排水路①



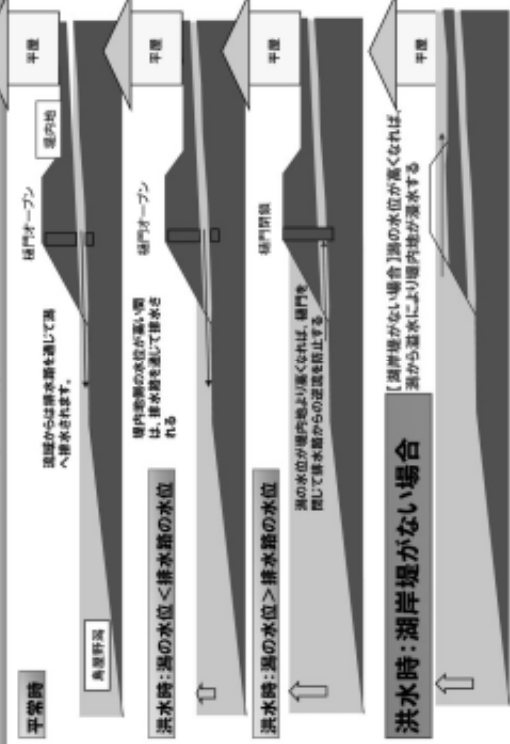
37

鳥屋野潟に注ぐ排水路②



38

潟水位と排水メカニズム

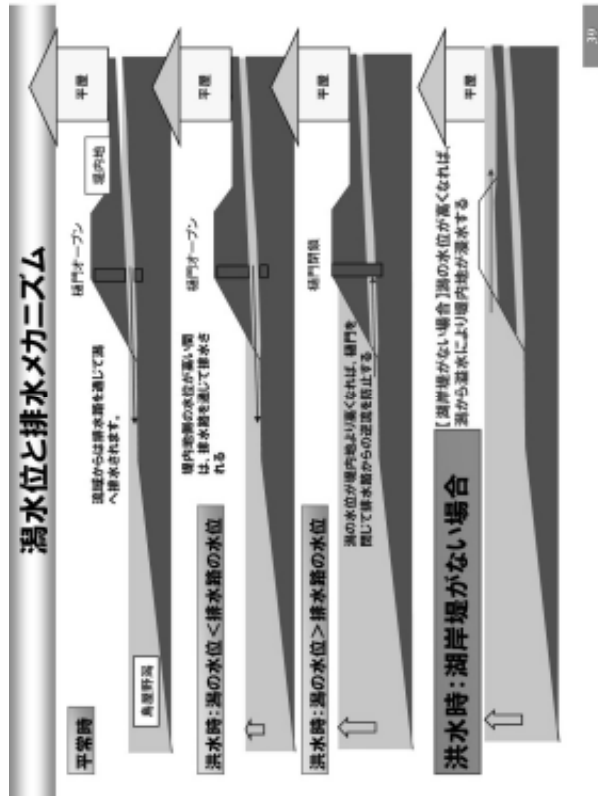



39



治水能力の向上が必要

⑤ 築堤をすると宅地の水がはけなくなるのでは？





治水能力の向上が必要

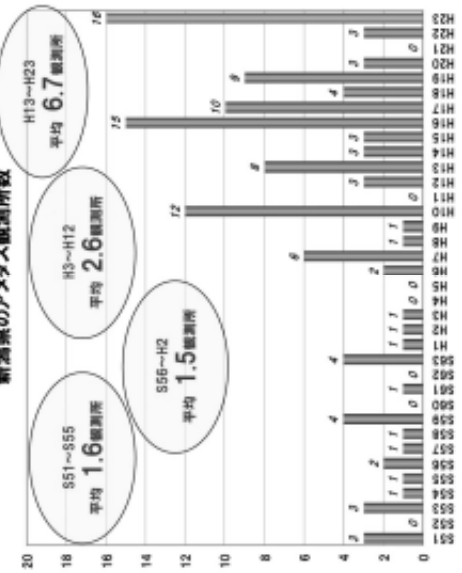
⑥貯水能力をフルに活用した河川計画

鳥屋野総合体育館付近
張板の上面がHWLから1m上がり:(計画堤防高:TP+0.50m)



○近年、全国的に短時間で非常に強い降雨が頻発しています。
○新潟県においても、大雨警報の発令目安である時間最大雨量50mm以上が増加傾向にあります。

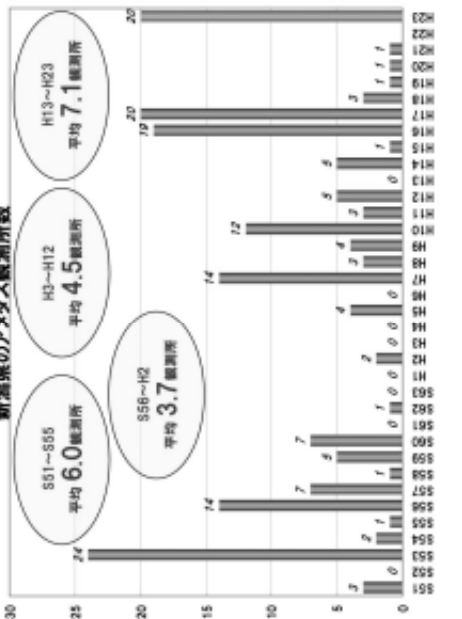
**時間最大50mm以上を記録した
新潟県のアメダス観測所数**



アメダス観測所	平均
S51~S55	1.6
H3~H12	2.6
H13~H23	6.7
S56~H2	1.5

○140mm以上の日最大雨量の観測回数も、近年増加傾向にあります。

**日最大140mm以上を記録した
新潟県のアメダス観測所数**

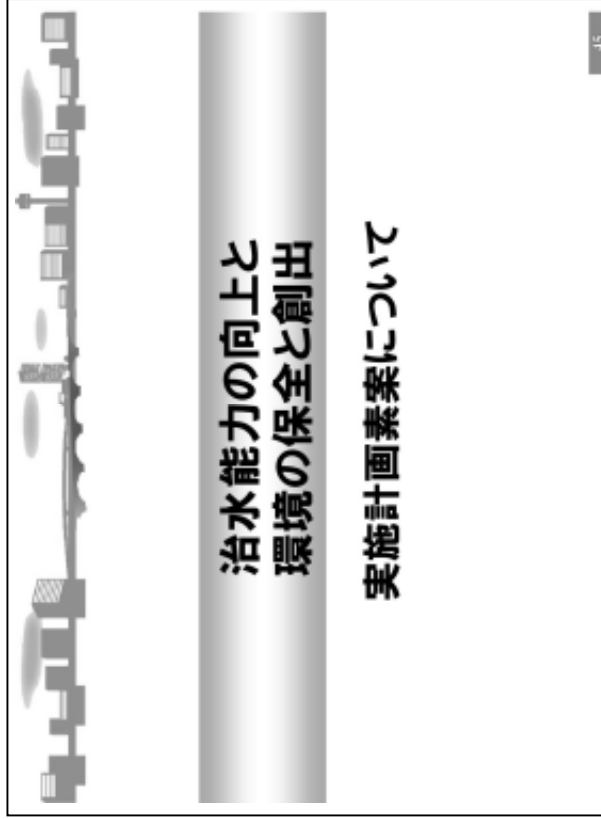


アメダス観測所	平均
S51~S55	6.0
H3~H12	4.5
H13~H23	7.1
S56~H2	3.7

貯水能力をフルに活用した河川計画 ～排水ポンプ能力と潟の貯留量の比較～

- 毎秒100m³の排水能力のポンプ場を例として考えます
(建設費用は約150億円～200億円)
- 1時間で排水できる量は、
100m³ / 秒 × 60分 = 36万m³
- 鳥屋野潟の計画貯留量は350万m³であることから、
約1 / 10に相当し、有効高で20cmに相当する。
- したがって、鳥屋野潟流域と鳥屋野潟の地勢的な関係を
最大限活かした湖岸堤の築造(貯水容量140万m³アツブ
建設費用は約110億円)が効果的。
- 器を作ること、超過洪水においても潟からの溢水を余裕
高の部分でさらに約120万m³貯めることができます。

44



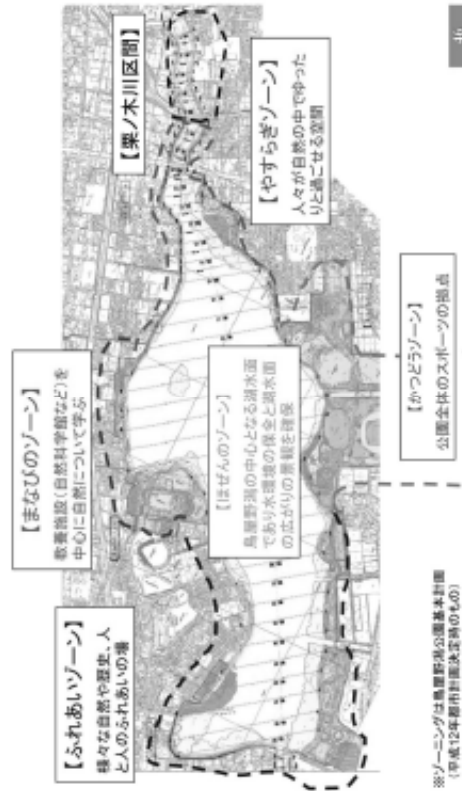
治水能力の向上と 環境の保全と創出

実施計画素案について

45

鳥屋野潟公園計画のゾーニング

公園計画のゾーン理念を反映した湖岸堤の整備を行う。



※ゾーニングは鳥屋野潟公園基本計画
(平成12年都市計画決定資料のもの)

46

整備の実施方針

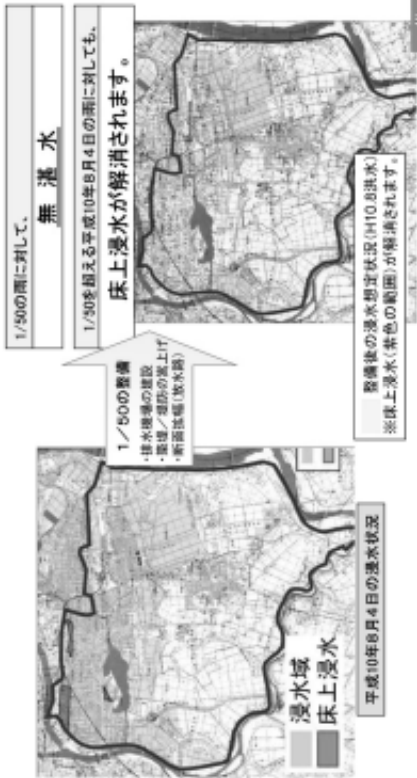
- ゼロメートル地帯であり治水施設は都市機能の根幹、
治水容量(約350万m³)を確保します。(出来るだけ
現状を変えない)
- 鳥屋野潟らしい景観である桜並木の保全、渡り鳥など
の生物の良好な生育環境となっている鳥屋野潟の湿
地の保全・創出に配慮します。
- 鳥屋野潟流域住民の生活空間及び公園利用者の憩
いの場としての遊歩道などの利便性や快適性を確保
します。

47

鳥屋野潟河川整備計画

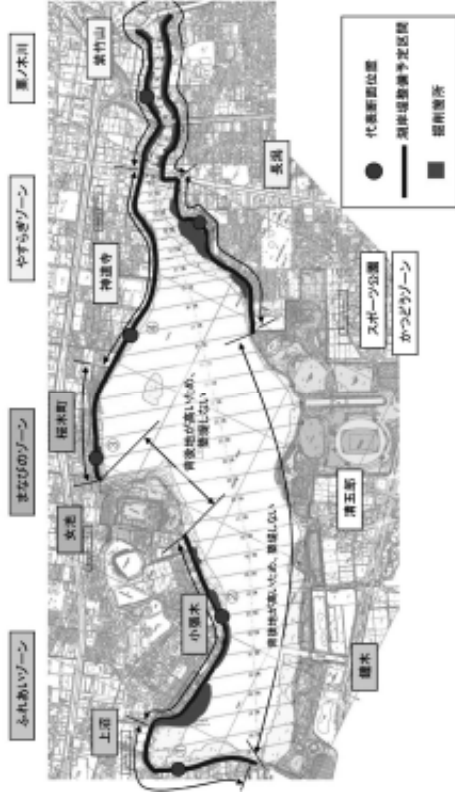
河川整備計画:整備効果

- 整備によって50年に一度の洪水に対して、浸水域を解消できます。
- また、平成10年8月4日の降雨(W=1/50以上の洪水)に対して、床上浸水を解消します。



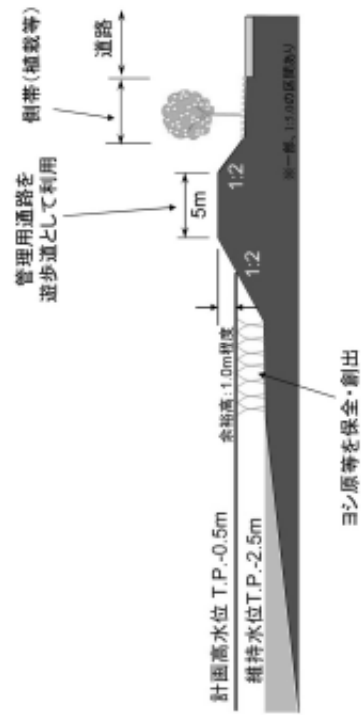
18

平面図



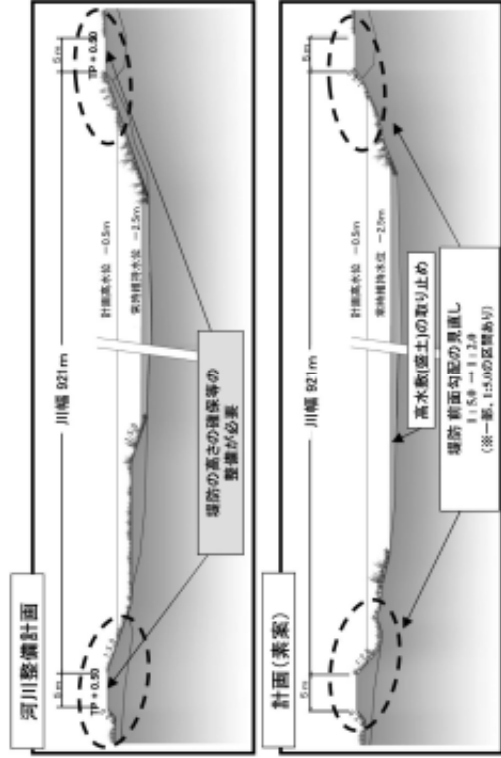
19

湖岸堤整備の考え方



50

湖岸堤整備の考え方(河川整備計画との比較)



51

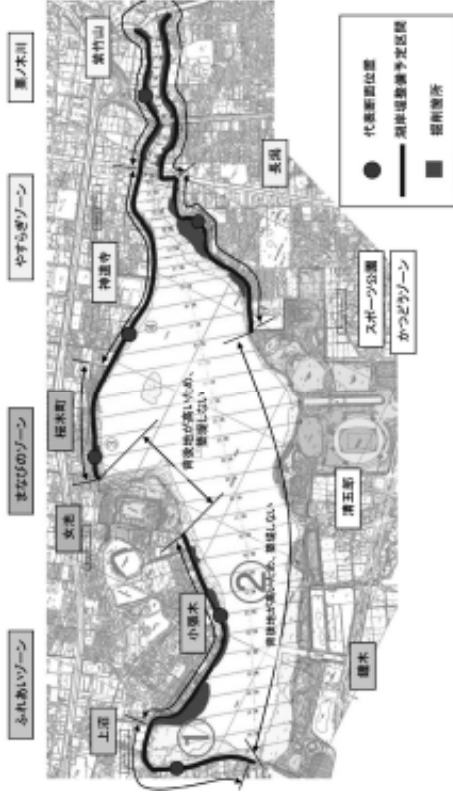
遊歩道について

- 堤防の天端を遊歩道としても利用できるように幅員5mで整備することとしています。
- 既設の鳥屋野潟公園の遊歩道や股栗筋と接続して鳥屋野潟を一周出来るような計画としています。



52

平面図



53

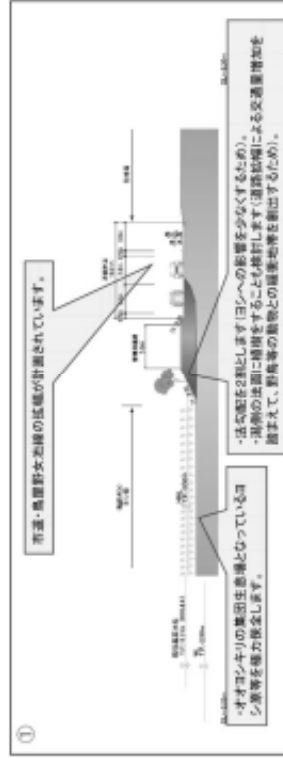
上沼地区

ヨシ原は多様な鳥類、昆虫類の生息に寄与していることから、これらの多様な生き物が生息するヨシ群落を優先保全します。



54

横断面図(上沼地区)



55

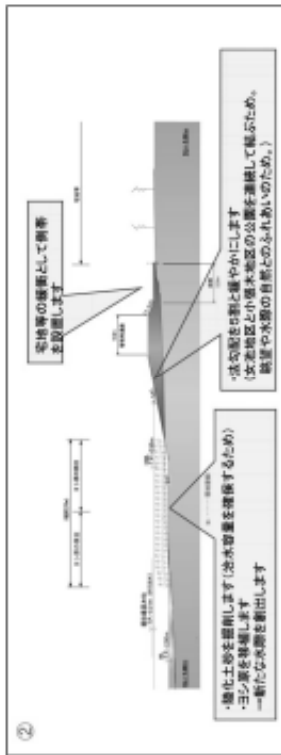
小張木地区

水障が陸化してきており、ヨシ原が少なく、沿岸に高木が少なく、眺望がよく、湖の自然環境や水障とふれあうことができます。



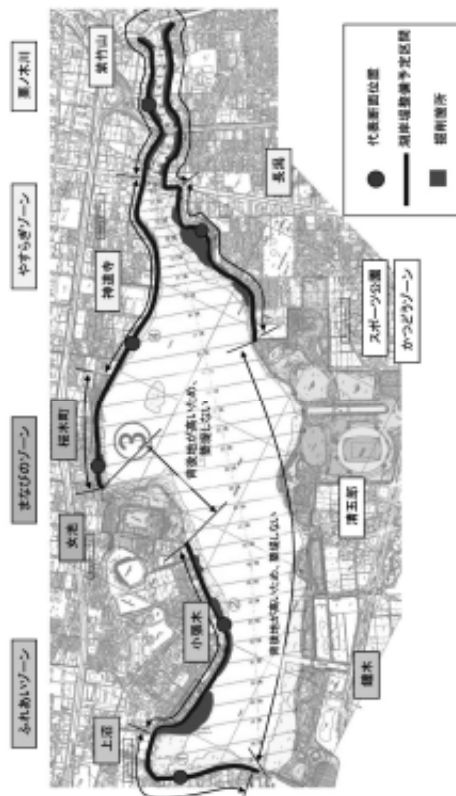
56

横断面図(小張木地区)



57

平面図



58

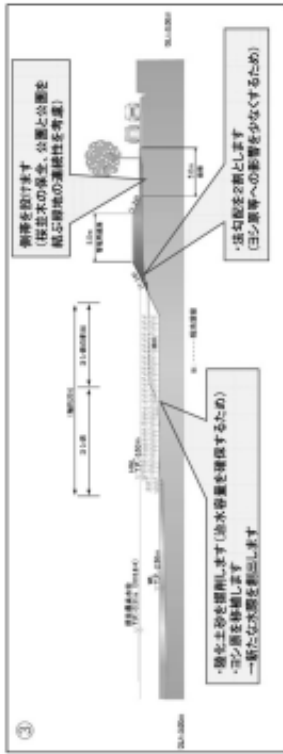
桜木町地区

背後には桜並木があり、その安全を図ります。
 ・県立図書館等へのエントランスであり、公園の整備が計画されています。
 ・比較的ヨシの分布が薄いため中ノ島の野鳥を観察することが出来ます。



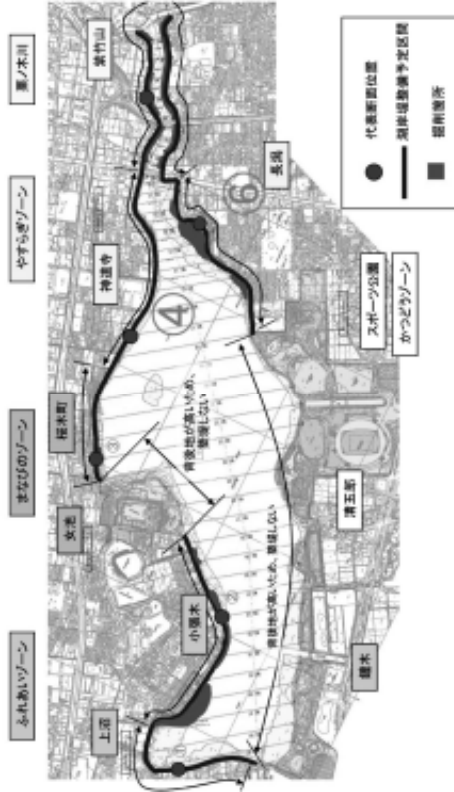
59

横断面図(桜木町地区)



01

平面図



01

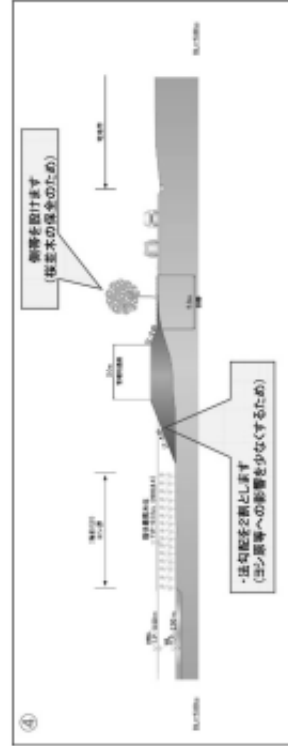
神道寺地区

育後地には町地と桜並木があり、その保全を図ります。



02

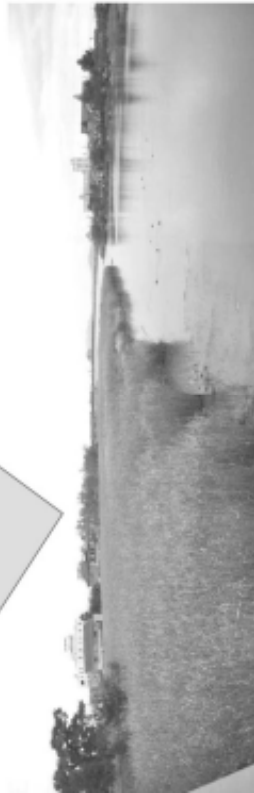
横断面図(神道寺地区)



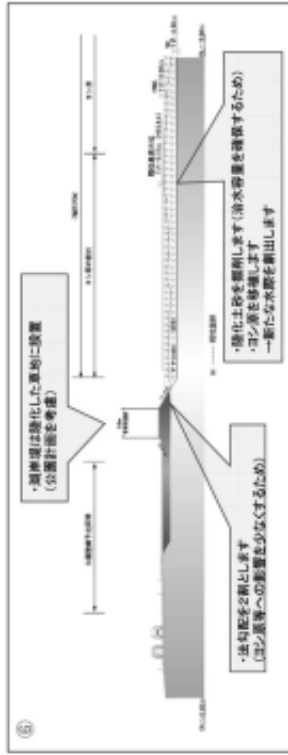
03

長瀉地区

ヨシ原は発達しており、多様な鳥類、昆虫類の生息・生息の場となっています。湖の自然環境を保全し、ヨシ群落を創出します。

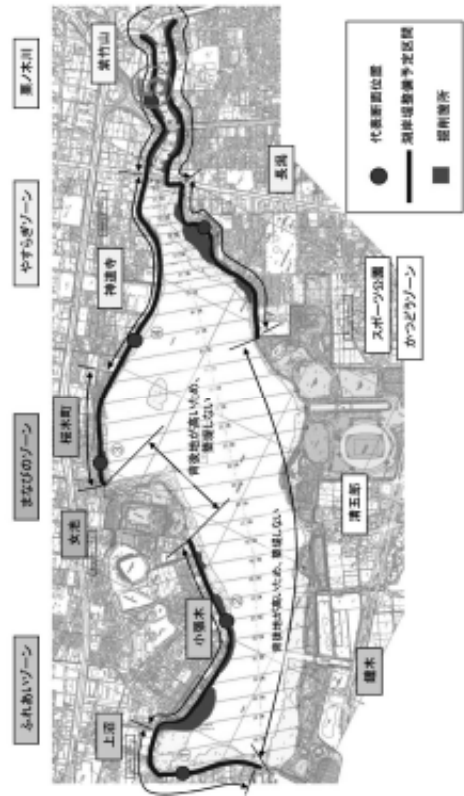


横断面図(長瀉地区)



04

平面図

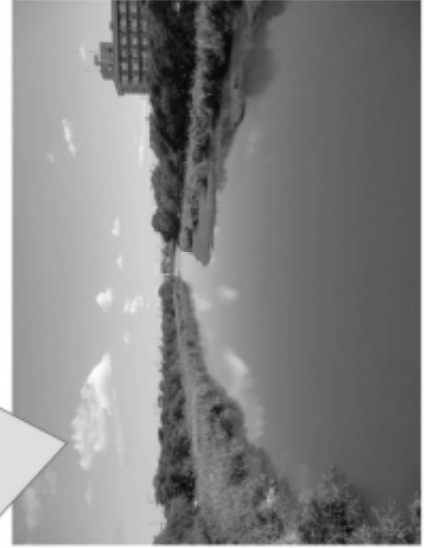


06

05

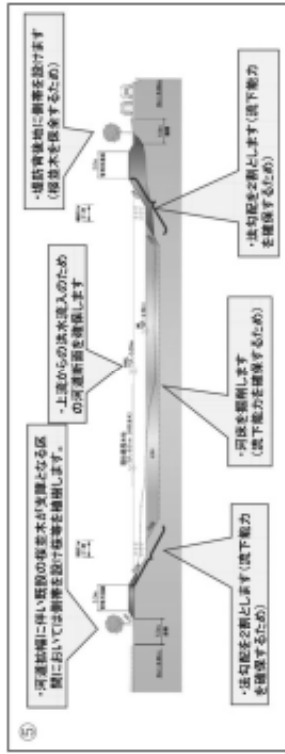
紫竹山地区

栗ノ木川沿いの植並木の保全を図り、散策できる空間を創出します。



07

横断面図(紫竹山地区)



08



最後に

良い河川環境とは人々の営みと密接な関係を持ったところに形成されています。

- 市民と潟とのより良い関わりを期待します。
- 私たちは、そのために鳥屋野潟という治水と環境が両立した器を作っていきたいと思っています。

10



計画素案から計画案に向けて

- 充実した計画案に向けて、次の取り組みを行います。
 - ①本シンポジウムを含むイベントやアンケート
 - ②パブリックコメント・電子会議室
 - ③市民団体・中央区自治協議会・潟周辺地区との意見交換会などでのご意見を参考にして検討します。
- 新たに次の内容についても計画案に盛り込みたいと思います。
 - ①工事にあたっての配慮事項(工法や施工時期など)
 - ②環境モニタリング調査の方法など

09

アンケート 設問3 鳥屋野潟へのあなたの思いや提案をご記入願います。

自由記述全文(原文)

<ul style="list-style-type: none"> ・自然の維持が必要。樹木群を増やせないか？ ・桜並木は大切にしていけばと思う。 ・春、お花見に行く際、いつも車道がせまいと実感する。 ・自然を大切にしつつ、景観を良くする為の整備が必要と思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・都市の中に憩いの場所、自然環境があるのは、住民としては有難いこと。これから一層美的にまた衛生的な維持・改善を願っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・市街地の中にある貴重な水辺空間であると同時に治水も重要である。水辺空間の活用はあくまでも現在の自然に負荷をかけない、又は人との緩衝帯をもうけるなど、自然への配慮ある治水、管理、活用が望まれる。 ・中央に橋を架けて、北と南を結ぶと良い。橋のデザインや高さを考えれば良い。(地下トンネルでもよい)
<ul style="list-style-type: none"> ・葦原が野鳥の住家になっておりますのでなくさないようにして下さい。 ・鐘木 小張木地区は、白鳥のねぐらになっており、遊歩道をなるべく離して設置して頂きたいなるべく葦を残すことが大切です。 ・遊歩道は自転車を一緒にせず別にすること。(事故のもとである) 自転車道は独立してつくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・小張木に住み鳥屋野潟の存在が大きく、高齢化の時代、なくてはならない存在だと思うこの頃です。人のつながりだけではなく自然そのものの存在こそが教え、考え、安らぎを与えてくれるものだとつくづく感じます。住んでいる人達のかげがえのない存在でありますよう。
<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の宅地化が進み公共施設も多く立地している。安全安心を優先して、あるべき姿をまとめてもらいたい。 ・車道拡幅は通過交通量を増大させる。交通便利性と潟の両立はなかなか難しい。落ち着いた静穏な環境、歩行者優先の環境が望まれる。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画もある程度必要とは思いますが、一定程度の意見(参考)の後は専門的知識を有する行政主導で整備を促進すべきと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・あまり人間が手をかけない方が良いと思う。 ・桜、自然、植物の整備は必要と思う。 ・周遊路は一部だけで、全体にやることは絶対に反対。堤防は反対。 ・遊歩道は歩行者だけでなく自転車も通れるスペースを確保してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・花見スペースの拡充(駐車スペースも含め)
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟の北部と南部を船やボートで行き来ができるようになるとうい。(観光地にあるようなものでなく、自然と調和したもので) ・カヌーやEボートなど、より水に親しめる乗りもので鳥屋野潟を知り、体験できるスポットができるとうい。
<ul style="list-style-type: none"> ・県は築堤を考えていますが絶対にやめてほしい。どうしてもやりたいのであれば、H10.8.4大雨時に溢水したところのみ50cm程度の嵩上げをすれば充分だ。 ・ヨシは水を浄化するのに大切なので残してほしい。 ・遊歩道は桜の土手の川辺の方に、木製にしてほしい。 ・桜の木の間近まで足をふみ入れないでほしい。その為に道路を広げる。桜から離れる為に。
<ul style="list-style-type: none"> ・新潟駅から近く、又、住宅地域に隣接する鳥屋野潟ですので、市民が身近に自然とふれることが出来る場所として、ぜひ遊歩道は作っていただきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟は毎日仕事で周ります。百年先も同じ風景を望みます。 ・新しい施設よりも現況の充実を希望したいです。 ・住民や観光客の参加する「まち歩き」に鳥屋野潟はまだ活用できていないので今後に期待します。
<ul style="list-style-type: none"> ・広大な鳥屋野潟に橋1本ぐらい欲しい。 ・桜の木は10mに1本ぐらいの間隔が良い。そうすれば根が重ならなくて良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟の清五郎の所にある一本松へ、夕方行くと、多く人が夕焼けをみている。 ・親水、子供達が水遊びできるような場がほしい。 ・景観を大切に。
<ul style="list-style-type: none"> ・潟一周道路の整備はとても価値を高めるものと思います。 ・できれば、散策路とサイクリングロードを分けた計画を検討してもらいたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の桜並木は車を制限した方がよい。危険。 ・子供も老人も安心して散策できる場所に。自然を生かす。
<ul style="list-style-type: none"> ・新潟は観光スポットがないので、県外からも鳥屋野潟目的で観光に来てくれる様に、整備だけでなく、観光スポットとしての開発もしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・私があと1年少しで90歳を迎えることができるのは新潟の自然環境のお蔭であると感謝しております。現役を退き20年近く、健康の為サイクリングを励行しております。 ・新潟島一周と鳥屋野潟一周です。このサイクリングで感ずることがあります。それは上沼橋から清五郎部落までの県立公園区域の部分で湖岸を自転車で通れないことです。駐輪場を利用すると、そこまで戻らなければならず、一周が湖岸を完全に一周できません。鳥屋野潟全周の湖周道路を作る場合に検討して下さい。
<ul style="list-style-type: none"> ・大昔は泳いでいる人も居た。ヒシも採れました。水をきれいに、魚つりや植物を観察したり、景観を生かし、お客(県外など)を連れていけるような水都新潟の憩いや観光(交流)の場として早く活かして欲しい。

<ul style="list-style-type: none"> 市民が気軽にふれ合う環境を整備し、生活に大切な潟、新潟市民には様々な意味で関わりがある潟として、大切にしたい。そして愛して欲しい。散策も遊船もあって良い。いろんな形でふれ合うことができる鳥屋野潟でいて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 新潟市中央区の水辺としてだけでなく、亀田郷の治水のためだけでなく、多様な動植物の生息・生育空間や観光面、そして治水のための潟として必要最小限の整備に留め、新潟市、新潟県の誇れる資源・財産となる潟として欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> もっともっと発信・活用すべき。
<ul style="list-style-type: none"> 誇れる、美しい、自然いっぱいのあるさに、今できること、今日のように皆んなで話し合う。素晴らしいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 遊歩道は当然だが、県の計画によると自転車道は考えていないというが、これは必要と思う。 桜の植栽について、ソメイヨシノだけを考えるのではなく、他の桜も、地区毎に考えて植え、桜によって地区がわかるというのも面白いのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> 清五郎側へ展望台を作ってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 早急な整備を願います。桜並木の整備、遊歩道(一周)の早期整備(車の危険から安全を確保したい)、道路周辺の雑草の適期刈取り 整備が完成する迄、気の遠くなる様な将来と思いますので、出来る限り早期の完成を期待しています。現在、桜の時期に老木ながら一生懸命咲いている立派な桜並木を楽しむ為、開花時に限り、特に土日祝日くらいは自動車通行禁止にして市民に道路を開放していただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 桜木インターからピックスワンまで橋でつなげたい。(樹木、道路の整備後) 白山スポーツセンター 昭和橋 桜木町 鳥屋野潟スポーツゾーン
<ul style="list-style-type: none"> 水をきれいにしなければ何も始まらないと思われます。 堤防には高低差を付け、防災も考えて下さい。 周辺の遊歩道との連絡をして下さい。
<ul style="list-style-type: none"> きれいな水で魚釣りや、泳いだ想い出がある。
<ul style="list-style-type: none"> 自然を大切に、共存を考えたい。 桜並木は自然を知り季節感を考え整備を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 鳥屋野潟を一周してみたい気持を提供出来る環境が必要。サイクリングロード、ランニングロード(歩道)を設け、子供、若人、老人共に楽しめる環境があって良い。白鳥(渡り鳥すべて)がもっと多く飛来して来る様な工夫があっても良いのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> 原風景をできるだけ保持したい。 ヨシはできるだけ残してほしい。 ある程度の越水、いっ水は容認。
<ul style="list-style-type: none"> 自然に負荷のかからない方法で鳥屋野潟を活用していかれることを望みます。
<ul style="list-style-type: none"> 潟の利活用と自然(生態系)は相反すると思います。両立一言は必要でも難しい。バランスの取り方が大切、難しいと考えます。 一部の団体、声の大きい人だけでなく、一般市民の声もじっくりと聞きながら反映させてほしいと思います。もっと時間をかけて、関係者が共通認識すべき。
<ul style="list-style-type: none"> 中央区駅南地区に居住し10年目になり、通勤、生活等でほぼ毎日北湖岸道路を利用している者です。春の桜、夏の新緑、秋冬の渡り鳥、素晴らしい景観を見ることができます。ある一面では、新潟県を代表する日本海より四季様々な楽しめる景色を与えてくれてます。しかし、その反面、交通面で非常に危険であると感じてまして、いつ整備するのだろうと思いながら10年が経ってしまいました。今日たまたまこのシンポジウム開催を知り参加しました。行政、地域の皆さんが一生懸命とりにくでることを知り、安心しました。
<ul style="list-style-type: none"> 街のまん中にある市民の貴重な財産として、一部の環境保護団体だけの対応しないで、公平な整備をして欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 昭和橋からピックスワンに抜ける橋(車道)があれば市民病院方面にも行くにも安価なタクシー料金でいける。でなければ歩道橋を!! 部分的に湖岸に棧橋のような歩ける木道橋が欲しい。 水上レストランなどがあれば、いやされる空間ができるのでは。
<ul style="list-style-type: none"> 安心して桜を觀賞できる遊歩道、水辺空間を北部に設けてほしい。 桜木インターから弁天橋又は上沼地区に行く道路が曲りくねって渋滞している。渋滞解消の為に施設をお願いしたい。将来は直接南側に行ける橋、あるいは湖底(地下)道路の設置を考えてもよいのでは?
<ul style="list-style-type: none"> 環境アセスメントが必要で、せっかくの整備によって貴重な動植物を殺滅しないでほしい。水質管理も重要な課題です。
<ul style="list-style-type: none"> 水田当時(耕地整理前)の鳥屋野潟を再現したい。 観光中心にしないでほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 自然を残すことも大切ですが、市民生活を守るためにも早急に治水整備を進めるべきだと思います。市民団体、環境団体の意見を尊重しすぎると、治水整備が遅れてしまいます。
<ul style="list-style-type: none"> 車輛の危険を考え、道幅を広げる。遊歩道をつくる。遊歩道は全周必要でない。半分程でよいと思う。将来の子供たちのため大賛成です。
<ul style="list-style-type: none"> しっかりした遊歩道に自動車用の駐車場(少なくとも2ヶ所)を完備してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 潟の周囲の整備をやって、遊歩道をつけて、自然をこわさず、現状を出来るだけ大切にして、市民のいいの場として欲しい。 水の浄化につとめ、植物、魚類、鳥類の楽園として欲しい。

<ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画で示された管理用道路(遊歩道)については、歩行者/ランナー/自転車がそれぞれ安全に通れるようにして欲しい。側帯がある部分ではサクラの樹だけでなく、歩道となっても良いです。また堤防は、一律の形状にするのではなく、ところどころ幅を拡げて、ベンチやあずまやがあれば一層良くなるので是非公園として整備して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 県立図書館、ピックスワン等周辺施設を利用することがあるが、潟との距離感を感じる。 良い景観を感じるポイントを遊歩道なりに増やしてほしい。 また、道路を使うのは車だけでなく歩行者や自転車もあるわけで、遊歩道だけでなくアクセス道路まで歩行者、自転車の視点を入れるとよい。
<ul style="list-style-type: none"> せっかくいい景色があるのに、水辺に近づけず、ヨシで視界がさえぎられるのが非常にもったいない。 新潟市民いいの場であり、自然を残しながらも整備していただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 何時も散策して居ります。東区に居住していますがバスに乗りついで行きます。緑がいっぱいで、水あり木あり緑ありですばらしい所です。あれだけの広い土地で散歩できるのは新潟市くらいでないですか。 今スズメバチとか時々出てましたが大丈夫でしょうか。子供達も時々行きますので、安全面だけはしっかりと考えて下さい。 もっと交通の便を良くして下さい。バス料金を均一にするとか、65歳以上は特に早急をお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> 鳥屋野潟は大都市に近接した貴重な水辺空間です。この特性から、全てを保全又は全てを開発するというのではなく、整備・開発・保全を計画的に行う必要があります。 また、この潟は1周約8kmと広大ですので、整備には多額の費用と長期間を要することが想定されます。既に人口が減少し、税収も限られていることから、整備にあたっては「ないよりは、あった方がよい」という希望を聞くだけでなく、ここまですると事業費がどうなるのか、維持管理が適切にできるのかを含めて議論していったらどうでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> 雨水対策、農業水利としての重要性を認識することが大前提。 都心に近い緑、水の空間として整備活用を。
<ul style="list-style-type: none"> 市の中央部に属する大切な空間です。ここをコンクリートの箱物で埋め尽くせばせっかくの前人達が残してくれた自然がなくなります。気軽にずっと包み込んでくれる空間は得難いものです。是非、市民目線の心の安まる整備を行政でお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> 新潟は自然や緑が少ないと感じています。他地方へ旅行する時は特に強く感じているので、これらについて何か方法がないのかと考えてきました。講演の計画案は全体としてはよいのではないのでしょうか。潟周辺に住んでいる人々の考えを聞いてください。
<ul style="list-style-type: none"> 昔の良き自然を復活し、治水と併せて、市民の憩いの場、観光地としての整備をお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> 治水の一環として湖底地のヘドロ除去を行っていたと思うのですが、まだまだ潟へ近づきたくないような水面にはなっていないような気がします。湖岸工事ではその辺りも改善が検討されることに期待します。
<ul style="list-style-type: none"> ほとんど行く時がないから良く解らないけれど、今日のシンポジウムを聞いて、整備されきれいになる事はすばらしいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 身近な触れ合える自然として、子供達のためにも、教育的、楽しめる環境として整備してほしい。 市民ひとりひとりが、今の鳥屋野潟の姿(生物)を、直接、自分の眼で見る事がまず必要だ。一般の人々が生き物の名前を知らなすぎる現状でアンケートなどとしても、サクラやホタルくらいしか回答がないであろう。 堤防は治水に役に立つとは思えない。何故なら、0m地帯がその周辺に広く広がっているから。
<ul style="list-style-type: none"> 治水目的が第一だが動植物、生態系は極力守れるのか？ がしかし、一周道路はほしい？(子供たちの野外学習、ウォーキング、ジョギング、マラソン利用) 桜は寿命の順に植え替え？ いろいろな市民の意見を聞き、あたり前ですが、今日一日で私の考えは決まりません。
<ul style="list-style-type: none"> 鳥屋野潟は市や地主やその他関係者だけのものではありません。日本の、県全体の、大げさにいえば地球の宝ものです。その潟の生命は、景観は県民の宝ものです。その未来は県民全体に関わるものと思っています。全国的にそのゆくすえを見つめています。市民の宝ものをどうするか、関係者だけでなく広く市民の意思を結集して下さい。
<ul style="list-style-type: none"> 中央区以外の人々の思いは、どれだけあるのでしょうか？
<ul style="list-style-type: none"> 新潟市の大切な湖である。憩いの場としての整備を強く望むものです。自然の保護、大切です。
<ul style="list-style-type: none"> 生きていうちに着工 完成させて下さい。(69歳男性) 特に北側を早くやって欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 今後の鳥屋野潟の開発に就いて、地域、亀田郷、県、市の協働として事を進めていくことを第一義として下さる事を願う。
<ul style="list-style-type: none"> 自然は大事だけど、生活者としては、人が利用できるのも大事だと思います。(一番は治水ですが) つくり市民会議のような進め方も良いと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> 桜並木の保全については、単に新しい木を植えて更新するのではなく、長きにわたって風雪に耐え、鳥屋野潟の環境に適合した現存木の子孫を活用されたい。
<ul style="list-style-type: none"> とても残念な事ですが、変なホテルが多く有ります。
<ul style="list-style-type: none"> 鳥屋野潟は、昔の姿がいいのか？自然豊かな昔とは違う新たな姿がいいのか。 後世に負担がかかるような(維持管理に莫大な費用が必要な)施設はいらぬ。 政令市として、鳥屋野潟(治水、環境、利活用含め)を整備するべき。 その他、潟を横断する橋はいらぬ。湖面を利用するボート等は風の力でやればよい。
<ul style="list-style-type: none"> 近くに住んでいます。まず治水を、そして陸化が進んでいる部分を掘る。

<ul style="list-style-type: none"> ・堤を作るのに反対である。浸水予想地の土台を上げるか移転を含めて考えるべき。現状の親松ポンプの能力で充分である。 ・ただ、一部に親水的な機能があっても良い。又、湖岸道路に違法駐車が多い。取締りすべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟をため池にしたいくないですね。
<ul style="list-style-type: none"> ・昔からの自然や景観を残しながら、市民が気軽に散策したり健康づくりが出来るかたちにするなら良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・治水上も、景観上も、堤防をつくらず。 ・県立図書館のような遊歩道をつくる。 ・絶滅危惧種を必ず保全。 ・湿地林(湖畔林)保全(地域:長潟側、北側両方)
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟は市民の宝です。先人達の話や鳥屋野潟が残されたのは心ある人々の強い意志と熱意があったからだとわかりました。 ・宝は放置することが自然を守るのではないはずだ。市民を災害から守るためには築堤は必要だろうし、ゲリラ的豪雨の傾向も考慮すべきだし、ヨシを守ることが自然を守ることになるというのなら春に刈り取ったり焼かれたり必要な手間や金を投じる覚悟が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・近くに居住しているが、潟に親しめない。やすらぎ堤には親しみを感じ、誇りにも思っている。 ・ぜひ、新潟市の宝物、鳥屋野潟の整備を切望している。
<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ早急に遊歩道、湖岸堤の築造の着手が必要と、要望する。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民のいいの場にしてほしい。また鳥屋野潟の自然も守ってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・治水、利活用、環境のバランスのとれた整備をお願いします。 ・行政の方には、難問でしょうが、潟が少しでもよくなるよう尽力願います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみのない、気持ち良く歩けるよう期待します。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民のいいの場として整備してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・幼少の頃から親しんでいる場所なので、今後、今以上の開発を進め、時代に合った進め方、また景観になってほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・新潟地震以前から、桜木町が出来たころから住んでいた。36年頃、オオハクチョウが最初に飛来した。今は無くなってしまった小さな旅館「湖畔苑」(図書館の脇にあった)のおばあさんが、毎日、残飯をあたえていた。現在の大島の出現前、あの場所のマコモ株に舟を結んで魚をつったのがつかしい。湖畔の桜の若木が並んでいるのを見た頃、この様に変わるとは思われませんでした。
<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学館とタイアップし、無人小型ヘリコプター等の航空写真を撮影し長期に変化を研究できるような施設を新設できないものでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・一周道路があったら良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・埋め立てによる築堤には反対である。
<ul style="list-style-type: none"> ・中心地に近い位置でこれだけ大きな潟がある都市はあまりないはずであるから、さらに活用すべき。自然を守るうえでも整備は必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・トキなどの野鳥が飛びかう市民のいいの場所になるようにしてほしい!! 是非ともトキが舞う環境にしてほしいです!!
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟は、佐潟や福島潟と違って、水ぎわまで生活圏が入りこんでいます。 ・自然は大切ですが、人間も大切です。自然保護に偏った思想もありますが、行政連絡会議の中で国、県、市、土改が同じテーブルについている機会に、必要な事業は行うべきです。今の自然は一時的には傷つきますが60～70年後には、立派な自然に復元できると思います。民意を集めて事業を行って下さい。 ・堤防を20cm程下げる旨検討中とのことですが、是非実現してほしいと思います。できればさらに20～30cm程度下げれば望ましいのですが、現道から1mも高くなると、道に立った人、特に子供が湖面を見れなくなるのではと思っています。 ・ヨシ原を保全してほしいのですが、あえて創出するまでは必要ないと思います。むしろ耕作地として保全すれば、環境が保たれると思います。

設問4 本日のシンポジウムについて感想意見をご記入願います。

自由記述全文(原文)

<ul style="list-style-type: none"> ・治水機能についてあらたに理解できた
<ul style="list-style-type: none"> ・調査、基調報告においては、大変理解し易い説明・プレゼンでした。
<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀は人を中心に文化が進んだが、21世紀は自然が中心で人間は自然の中で生かされていると思う。本シンポでも人と自然の調和を考慮した話が多くあったが、まだ人間本位でないか。湖岸道路は一周でなくてもよい。潟の動植物を保護するため。
<ul style="list-style-type: none"> ・資料配布:もっと詳細な資料が良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムのわりにせつかく説明して下さる内容の資料がほとんどなく、見返す機会がないのがとても残念です。広がっているセイタカアワダチソウは気になっていました。 専門家の話を聞く事で心強いものを感じました(紙谷さん)。
<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校で学生さんの発表はユニークな発想で興味深かった。若い人から意見を聞くような仕組みがもっとほしかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・10数名の参加者の意見が発言であったが、人は自然との共存との線引をどこでまとめるか?実態とのすり合わせが必要と思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟について、こんなに考える事がなかったので、とても有意義な会であった。 ・泥田はいらない。(とやの話と輪の会は何を考えているのか?)
<ul style="list-style-type: none"> ・市民主催という点がよかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・泥田の体験で新潟の米づくりの歴史について学ぶという提案がよかったと思います。あぜを10cm高くすると~少しでもその夢が実現できるといいなと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・大変わかりやすかった。地低観も興味あった。自分達が永年裁判にかかわったから。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体(特に佐藤氏)は単に陳情団体にすぎないと感じます。お願いだけで、自分のアクションプランが示されない。
<ul style="list-style-type: none"> ・住民側、県整備側、学術的な考え、多方面に話し合いが出来て良かったです。行政の手法もおおむね好意的にとれました。
<ul style="list-style-type: none"> ・とても良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・さくらの管理はどこか。
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟を感じる、見る新たな気付きができたように思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・大変有意義でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・知識人だけでなく経済関係、企業経営者の方からの提案、意見なども聞いてみたいです。市民のためだけでなく、新潟に人を呼ぶ方面でも開発・整備して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川市から参加しておられた方にはびっくりしました。政令都市にいがたの宝である鳥屋野潟に関心がさらに強くなりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・先人のこれまでの苦勞や治水効果のPR等、これからの整備に向けた、大勢の意見を反映させるため、このようなシンポをおおいにやって欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟の問題が分かりやすく説明があって良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回で終わらせないで継続したシンポにすべき。とても有意義でした。参考になりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・どろ田は?胸までつかるとろ田、うらみ、つらみのどろ田です。出来るだけ今の状態を残して欲しい。自然を大事に!!
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟は、その周辺の住民だけのものではなく、新潟市民全体の公共物である。広く意見を求めるべきである。
<ul style="list-style-type: none"> ・紙谷先生の発言が印象的。
<ul style="list-style-type: none"> ・環境、自然も大事であるが、都市のド真ん中にある潟、治水を重点に都市の湖として活用出来る様に、要するに市民が桜をながめたり、ウォーキングしたり、散歩したり日常的に楽しめるようにして欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・説明映像のパンフレットが欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・生物の自然植生を生かした公園が必要である。 ・子供が水あそび出来るような水質を部分的に。 ・冬場、利用出来るものを。公共対策はほとんど考えられていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション、市民を含む四氏の話を勉強させて頂きました。将来像については永い目で皆様の意見を取りまとめ進めて下さい。防災第1、親水利用第2。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の新潟について、中味の大切な時間でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・来て大変良かった。なぜなら、具体的に計画が進められることと、私なりに考えていることが多少なり取り入れられていたこと。方向性が良く判った。
<ul style="list-style-type: none"> ・紙谷氏の「潟と人との近くなる」ようなコンセプト(築堤)に賛成です。
<ul style="list-style-type: none"> ・パネラー、市民のいろいろな意見をお聞かせいただき、有意義でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・予算確保の上での整備だと思うので、夢はふくらみますが、施設ものは後世の世代に託するとして、治水と歩道(現況道路はとにかく危険)整備を第一に早急に取り組んでいただきたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・県の治水計画の説明はわかりやすかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・基調はわかりやすかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換で分かったことは、まだまだ行政と市民、関係団体との話し合いが必要と思われる。時間をかけてもらいたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・県の整備計画の発表、整備計画検討会のスタート等、鳥屋野潟のあるべき姿のシンポは時宜を得た企画であった。 ・これを実施する(北部)新潟市においては、鳥屋野潟整備局(課)を設けて、市の具体計画を早急にとりまとめ、実行に歩を進めてほしい。 ・新潟工科専門学校の提案もおおいに参考になる。
<ul style="list-style-type: none"> ・区自治協議会によるシンポの開催は、大変結構なことと思います。これからも区民の生活に密着したテーマを取り上げ、シンポの開催をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間の関係を深めてゆきたいと思います。科学的に論議する。 ・市民意見をとりまとめる為には良い機会と考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の計画、実施は出来るだけ早くやって欲しい。 鳥屋野潟が市民にとっていかに大切なものであるかあらためて感じられた。 大切に守って行きたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・治水の問題は重要。堤防の必要性が良くわかった。都市の中の湖なので人命・財産は確実に守られるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・パネリスト、観客共に高齢の方が多いの、想いの強さを感じるが、若者が少ないのが非常に悲しい。 専門学生の発表を聞いていて、検討の甘い部分もあるがワクワクして楽しい。もっと若者から高齢者まで参加したいと思えるシンポジウムであってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・このような市民をまきこんで共に考える場は重要。もっと気運を盛り上げるために関係団体との連携を深めて、活動を活性化させてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟に関心持っていたきたい。市民より、より以上に知っていただくこと。
<ul style="list-style-type: none"> ・桜の寿命が60年～70年とは知りませんでした。きれいな花は短いですね。桜並木を切らさない様に計画して下さい。 いろいろ予算もあると思いますが、それを何とか予算を取って整備する様にお願いします。鳥屋野潟一周コースは良い案です。 ・(市長に)宝ものといえば子供達です。子供が安心して遊べるスペースを沢山作って下さい。それには交通の便を良くしないとダメです。今は南口から乗りついで鳥屋野潟公園に行くには約500円(片道)かかります。それを一律に200円にする様に市長をお願いします。 ・学生の意見はすばらしいと思いました。一時も早く現実にして下さい。待ってますよ。
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋野潟については、関心をお持ちの方が多数いることが分かりました。 公園、河川、景観などさまざまな視点での検討が必要であり、合意形成は難しいようです。
<ul style="list-style-type: none"> ・大変良かったと思います。ごろう様でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・中身が濃かった。 箱物はもういらない。 市民の意見をもっと聞きとれるプログラムにして欲しい。その為には、整備、開発を急がず、熟してから。
<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県の鳥屋野潟の整備計画についての検討時間が短いように思います。平成25年2月にまとめるのはムリでは？ ・中央区協議会(賑わいの部会)の委員としてプライドを感じる素晴らしいシンポジウムでした。こうした企画により行政は動いていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・こういうシンポジウムをもっと多くやってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケートにもある通りで、現状課題として“桜”、“歩道”という二つの今後について参考になりました。シンポジウムの意見であったように、“アプローチの方法”を様々に考えてベストミックスができればうまく進んでいくのだと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクの音量が大きくて、耳が疲れました。 ・Swan Lagoonは、具体的でおもしろいでした。 ・人間中心でいいのかどうか、意見交換で考えさせられました。
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな立場・視点からの意見を聞けて良かった。もっとこのような催しを行ってほしい。 ・一緒に考えるシンポジウムで、基調報告の築堤の提案は趣旨に反するように思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・“あるべき姿”とは？ という問題はすべての市町村が必ず抱えていることなので、勉強になりました。利用・開発と保護・保存が対立しない道を求め続けることは大変ですが、絶対に必要だと改めて思いました。鳥屋野潟が観光スポットになるのか、自然を100%残し、治水と整備をほどこせるのか、遠くから見させていただきます(糸魚川市)。
<ul style="list-style-type: none"> ・長時間のシンポジウムでしたが、飽きさせない、それぞれの意見・内容で、参加して大変良かったです。 パネリストや学生さんの意見は勿論良かったのですが、中央区の方々の真剣な意見には感動しました。落ち着いた皆川さんのコーディネーター、素晴らしかったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・潟の知らないことが多い。それらを知ること。 りゅうとびあ新潟のイメージより豊かなりゅうとびあに、新潟市は潟学をおこせ。 田園環境都市
<ul style="list-style-type: none"> ・潟の整備が完了するまで毎年続けた方が良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・パネリスト、コーディネータ、ご苦労様でした。12人の会場内での意見、新潟工科専門学校の生徒さんも大変ご苦労様でした。今後ともこの種の会を望みます。 ・とても勉強になりました。早い着工をお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムは大変重要なものであったと思うが、市民意見を聴く、意見交換を行うのであれば、行政が行うべきである。
<ul style="list-style-type: none"> ・築堤の必要性が良くわかった。 雨の降り方による影響を分かり易く説明してもらった。
<ul style="list-style-type: none"> ・前半は良かったが、後半の、参加者との意見交換は聞き苦しかった。反対者は語気を強め発言するが、前向きな意見をもっと聞きたかった。 ・対市長の場ではない。団体意見は別でやればいい。鳥屋野潟は市民のもので、反対市民団体のものではない。 築堤反対が民意ではない。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の計画は基本的に良い。来年度実施を望む。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事ありきではダメ。戦略的アセスを行うべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大変良く調査された報告、発表で良かった。今後継続して検討していきたいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ようやく鳥屋野潟整備の準備ができる時がきた。今かかえている事柄を検討することも重要だが、子供達や次世代の人々に役立つものは何か、よく考えていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 意義のあるシンポジウムだった。 しかし、ただ単に楽しめる鳥屋野潟整備を思うのではなく、市民としても、もっと勉強しなくてはいけないと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水環境に様々な意見がパネリストから出て来ました。湖の生物・植物について、より調査研究が必要と思います。しかし計画、実施についてはより早い予算化が必要と思います。様々な意見はあると思うが、より具体的実施が市民に効果を上げるものと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大変勉強になりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 流域内、H10に浸水した経験を持つ私共に対して、他区の住民が「自然」や「環境」を大切にして治水(築堤)を不要との意見には、大切なところを見落としている感想を持ちました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 湖北道の桜の木の間に駐車禁止を表す看板やポールが設置されている。にもかかわらず無理矢理駐車している車が多くみられる。ダンコ排除すべき。 ・ 今年は野鳥が多くみられるが、冬場の餌となる虫の冬眠すべきヨシ原に異変がみられる。ヨシの保存を！ヨシは自然の象徴。阿賀野川ではみられなくなってしまった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3潟について色々の環境保全の方策、実行方法があることを、今回のシンポジウムに参加して知ることができました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民との対話がもっと必要と感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな立場、専門分野、考え方がることがよくわかった。 もちろん議論は必要であるが、まとまらないようであるなら、生活に本当に必要な範囲は行政主導でも行うべきと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ よかったと思います。県の案もいいと思います。